

教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価に関する結果報告書  
～令和6年度実績～

令和7年6月  
別府市教育委員会

別府市教育委員会名簿

令和7年6月1日現在

教育長 寺岡 悌二

教育長職務代理者 福島 知克

委員 山本 隆正

委員 新谷 なをみ

委員 松浦 倫

委員 田中 淳子

— 目 次 —

別府市教育委員会 名簿	1
I 点検・評価の概要	4
II 点検・評価シート	
<基本方針1> 「学び、育つ」ことを重視した教育	
1 子どもを主語にした学びの推進	
(1) 人格形成の基礎を培う質の高い幼稚園教育の推進	5
(2) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業改善の推進	6
(3) ICT 教育の推進	7
(4) 自然体験活動の推進	8
2 自律した子どもが育つ学びの推進	
(1) 子ども自ら作る学校生活の推進	9
3 安全で安心して過ごすことができる学校づくり	
(1) 特別な支援が必要な子どもたちへの支援	10
(2) いじめの未然防止と適切な対応・支援の推進	11
(3) 「不登校」児童生徒への支援	12
(4) 小・中学校における食育の推進	13
(5) 学校における人権教育の推進	14
4 子どもと向き合う時間を確保する取組の推進	
(1) 教職員の業務改善の推進	15

## ＜基本方針2＞ 地域に学び、地域で育み、地域を創る教育

- 1 地域社会と学校の連携・協働の推進
  - (1) コミュニティ・スクールの推進・・・・・・・・・・ 16
  - (2) 地域教育力の活性化・・・・・・・・・・ 17
- 2 誰もが学ぶことができる機会をつくる、人と人がつながる社会教育の推進
  - (1) 多様な主体の社会教育の推進・・・・・・・・・・ 19
  - (2) 子どもの読書活動の推進・・・・・・・・・・ 20
- 3 「ふるさと別府」を探求する学びの推進
  - (1) 「別府学」の推進・・・・・・・・・・ 21
- 4 国際的な感覚を育む学びの推進
  - (1) 国際理解教育の推進・・・・・・・・・・ 22

## ＜基本方針3＞ 次代を生き抜く力を育む教育環境の整備

- 1 生涯学べる学びの場の創造と社会教育活動を推進する環境の整備
  - (1) 新図書館の整備・管理・運営・・・・・・・・・・ 23
- 2 おいしい学校給食を提供する新たな給食施設の整備
  - (1) 別府市学校給食センター等の運営・・・・・・・・・・ 24

Ⅲ 知見活用委員会による意見・・・・・・・・・・ 25～27

Ⅳ 教育委員会活動状況・・・・・・・・・・ 28

Ⅴ まとめ・・・・・・・・・・ 29

## I 点検・評価の概要

### ○ 経緯

平成 19 年 6 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成 20 年 4 月から施行されました。別府市教育委員会では、この地教行法の第 26 条の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価（以下「点検・評価」という。）に関する結果報告書の作成を平成 20 年度から実施しております。今回も、昨年度（令和 6 年度）の教育に関する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者からなる知見活用委員会のご意見・ご指摘を受け、点検及び評価を行いました。その結果をここに報告するものです。

### ○ 目的

点検・評価は、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、的確にその施策効果を把握し、その目的又は目標に照らして、必要性、有効性、効率性、公平性の観点から行います。この点検・評価によって事業の課題や改善点をより明確にし、よりよい教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすことを目的としています。

### ○ 学識経験者の知見活用

教育行政に造詣の深い学識経験者 3 名から構成される知見活用委員会のご意見・ご指摘を受け、自己評価等の見直しを図りました。知見活用委員会のご意見は、「Ⅲ 知見活用委員会による意見」に記載しました。

#### 【知見活用委員】

本 田 明 子 氏	立命館アジア太平洋大学	教授
櫻 田 裕美子 氏	別府大学	教授
山 本 遼 氏	大分大学教職大学院	講師

### ○ 自己評価・教育委員会点検評価基準

A 達成	100% 以上
B 概ね達成	80% 以上 100% 未満
C 不十分	80% 未満

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育	学校教育課
施策	主管課
事業	関係課
事業目的	成果指標①…各研修会において「研修に参加したこと、今後の保育実践の手立てを得、保育実践のふりかえりと改善に役立った」と回答した幼稚園教員の割合90%以上 成果指標②…「公開保育を実施し、指導主事及び他園教員から助言を得ること、今後の保育実践の手立てを得、保育実践のふりかえりと改善に役立った」と回答した幼稚園教員の割合90%以上

< CHECK >

成果指標に近づくための主な取組①	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	取組指標に対する取組の状況	事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	主な取組① 今後の展開
幼稚園教員研修(幼稚園教育要領及び幼児小架け橋プログラムの理解推進、特別支援教育)の充実	○研究主任研修会(年間2回程度)、特別支援教育専任教員研修会(年間4回程度)を実施します。 ・各キャリアアセスメントにおける研修目的が達成されるよう、公開保育や「10の姿捉えフォーラム」を用いた事例検討・研究協議等を行います。	研究主任研修会は、2回実施しました。研修の機会を確保するために、全ての幼稚園教員を対象として実施しました。内容は、特別支援教育に関すること、公立幼稚園の役割の確認、架け橋期の教育に関すること、10の姿捉えフォーラム」を用いた事例研修等を行いました。特別支援教育専任教員研修会は4回実施しました。公開保育後の事例研修、具体的な支援方法、個別の指導計画の作成方法等の研修を行いました。	事業目的達成について ○「今年度の研修会において研修に参加したこと、今後の保育実践の手立てを得、保育実践のふりかえりと改善に役立った」と回答した幼稚園教員の割合は100%でした。「10の姿捉えフォーラム」の取組は3年目となり、各園で遊び全体から「10の姿」を活用して、子どもの育ちの姿や育ちつづめる資質・能力を捉えることができるようになってきていると思われまます。 ・さらに研修会では、他園幼稚園教員と「10の姿」を活用しながら育ちの姿を再度捉えなおし、小学校につながる資質・能力を考慮することをしました。他園幼稚園教員と協議することには、新たな考え方や捉え方に気づく機会となり、幼稚園教員の資質向上につながると考えています。 ・特別支援教育に関する内容については、全ての幼稚園教員の理解が必要であると考え、研究主任会や特別支援教育専任教員研修会において特別な支援が必要な園児への基本的な姿勢について説明し、3学期の活動(お楽しみ会や卒園式)での具体的な支援方法について協議を行いました。特別支援教育について研修の機会が少なかつたので、研修ができてよかった。「具体的な支援を考えた」「子どもの困りに寄り添いたい」等の感想がありました。日ごろの保育や支援について振り返ることができるよう説明の工夫や他園幼稚園教員と協議する時間を設けたことで、保育実践のふりかえりと実践に役立ったと思われまます。 ・公立幼稚園の役割を踏まえ、「特別支援教育について研修をしたい」「幼小接続について学びを深めたい」という声があり、この点について研修を深めていく必要を感じていま	達成終了 <input type="checkbox"/> 継続・拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し <input type="checkbox"/>

< DO >

成果指標に近づくための主な取組②	主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	取組指標に対する取組の状況	成果指標②について ○「公開保育を実施し、指導主事及び他園教員から助言を得ること、今後の手立てを得、保育実践のふりかえりと改善に役立った」と回答した幼稚園教員の割合は100%でした。 ・他園の保育を実践に見ることで、環境構成や援助の新たな気づきを得ることができていると思われまます。また、客観的に保育を見て全体的に子どもの遊びを捉えることで、自園に戻った時に違う角度から子どもを捉えたり、保育をしたりすることにもつながっていると思われまます。 ・幼稚園は2~3人程の教師集団となり、子どもを捉えや保育の方法等を工夫しようと思っても難しいこともありまます。他園の幼稚園教員から保育参観をしてもらい、事後協議をすることで、子どもの新たな一面を教えること、別の保育の方法を教えることもつたりすることができ、今後の保育に生かすことができたと考えられます。	主な取組② 今後の展開
指導主事による年間2回以上の公開保育研究会への参加と指導助言	各幼稚園の課題(子どもの育ち、保育内容・方法等)の解決に向け、学期に1回程度(1,2学期)、指導主事が園内研修会公開保育・事後協議に参加します。 ・多面的に子どもの育ちを捉え、保育内容・方法の改善につながるため、他園幼稚園職員等の年1回以上の公開保育・事後協議への参加を要請します。	公開保育研究会には、1・2学期に14園全てに訪問し、指導助言を行いました。また、他園幼稚園職員との公開保育・事後協議への参加について要請しました。	成果指標②に対する自己評価とその理由 A 二つの成果指標で示した数値目標を達成したこと、評価を「A」としました。	達成終了 <input type="checkbox"/> 継続・拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し <input type="checkbox"/>

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	成果指標達成のために二つの取組を実施し、目指していた成果指標に達することができました。今後の公立幼稚園に求められている役割には、「幼稚園教育要領に基づいた教育・保育の実施」「特別支援教育の実施」「幼児小連携のコーディネート」が欠かせません。「10の姿捉えフォーラム」の取組で丁寧に子どもを見取り、保育を振り返ることを続けながら、特別支援教育についての研修、幼小接続について引き続き実施したいと考えています。
----------------	---

※「10の姿捉えフォーラム」とは、…一つの遊びの始まりから終わりまでの一定の期間の中で、遊びの様子を継続的に記録し「10の姿」の窓口から子どもの姿見取り、育ちつづめる資質・能力を捉えるための、事例研修の形式のこと。

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育		主管課	学校教育課
施策	1 子どもを主語にした学びの推進	関係課	
事業	(2) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業改善の推進		
事業目的	別府市教育委員会は、児童生徒が、資質・能力の3つの柱(「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など」「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性など」)をバランスよく身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、学校の「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を支援します。		成果指標①…別府市学力調査において、各教科の「基礎」「活用」小・中学校24項目、中学校20項目において母体平均正答率を上回った割合100%(小学校3~6年<国語、算数、理科>中学校1、2年<国語、社会、数学、理科、英語>) 成果指標②…授業での課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答する児童生徒の割合80%以上 成果指標③…友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答する児童生徒の割合80%以上

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	取組指標に対する取組の状況
指導主事による各校の授業研究会への参加と指導助言	別府市教育委員会は、指導主事による年間1回以上の各校の授業研究会への参加と「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導助言を行います。	指導主事による各校への参加と指導助言は年間1回以上実施できました。

< DO >

取組指標に対する取組の状況
指導主事による各校への参加と指導助言は年間1回以上実施できました。

< CHECK >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)
<p>〈分析〉</p> <p>成果指標①について</p> <p>○別府市学力調査において、各教科の「基礎」「活用」を上回った割合は小学校87.5%(24項目中21項目)、中学校60%(20項目中12項目)でした。</p> <p>・学力調査結果は、取組①②の積み重ねの結果であると考えます。R6年度別府市学力調査の分析をもとに、問題解決的な授業や活用型の授業の実施等、より一層学校の事情に即した「授業改善」に向けた指導助言を続けていく必要があると考えています。</p>

②

成果指標に近づくための主な取組②	主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	取組指標に対する取組の状況
教育実践研究事業の実施	別府市教育委員会は、教育実践研究事業(R6は小4校、中2校の公開授業)を実施します。	教育実践研究事業対象校(朝日小、大平山小、亀川小、上人小、朝日中、北部中)の公開研究会ができました。

成果指標②について
<p>○「授業での課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」と回答する児童生徒の割合は小学校82.1%、中学校79.4%でした。</p> <p>・中学校が80%に届かなかったものの、昨年の77.5%から向上しており、ほぼ目標に近い結果が出ていることから、「授業での課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」でいく、主体的な学びの実現に向けて指導助言を続けていきます。</p> <p>成果指標③について</p> <p>○「友だちと話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と回答する児童生徒の割合は小学校86.0%、中学校86.3%でした。</p> <p>・小中学校ともに設定した指標を上回り高い達成率となった理由は上記と重なりますが、さらに対話的な学びを実現するために、今後も引き続き、学校における「授業改善」を支援する取組を続けていきます。</p>

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	<p>・今年度設定した成果指標の達成に向けて2つの主な取組を実施しました。成果指標の達成には届いていませんが取組には取組を継続する中で改善を加えていきたいと思います。具体的には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、問題解決的な授業や活用型の授業の実施等、授業改善を進める視点を示したり、単元構想の作成を支援したりするなど、学校の困りや課題意識に沿って重点を明確にした指導助言を進めていきます。</p> <p>・教育実践研究事業については、中学校区単位で行うことで小中連携の取組を進めるとともに、効果的な取組を市内の小中学校に研究主任会等を通じて共有してまいります。</p>
----------------	---

主な取組①今後の展開
<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し

主な取組②今後の展開
<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育		主管課	学校教育課
施策	1 子どもを主語にした学びの推進	関係課	
事業	(3) ICT教育の推進		
事業目的	別府市教育委員会は、学習者が主体となる授業の実施、および、情報を主体的に選択・活用していくための基礎的な資質としての「情報活用能力」の育成に向け、学校におけるICT教育の推進を支援します。	成果指標①…各小中学校での授業におけるICT機器活用が週3回以上と答える学校が90%以上 成果指標②…学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答する児童生徒の割合が100% 成果指標③…ICT機器を活用し、調べたことや学んだことをまとめ、発表することができた と回答する児童生徒の割合が80%以上	
	事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか。 成果指標(アウトカム)		

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で 別府市教育委員会が主催するICTの活用に係る研修を年間2回実施します。	取組指標に対する取組の状況 ICT活用に係る研修を年間4回実施しました。
成果指標に近づくための主な取組②	主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で 別府市教育委員会が、各学校の要請に応えやすくするためにTeamsを活用し、積極的な訪問を促すことで、各学校が月3回以上ICTテクニカルスタッフを活用できるようにします。	取組指標に対する取組の状況 令和6年4月から10月にテクニカルスタッフが各学校を訪問したのは月平均3.6回でした。

< DO >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)
--------------------------------------

<p>〈分析〉</p> <p>成果指標①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用した授業が週3回以上と答えた小学校が92.8%、中学校が100%でした。</li> <li>ICT機器の活用の仕方についての研修に参加することで、使いやすさや利便さを感じる教員が増え、授業への活用も増えてきています。</li> <li>研修に参加した教員が、校内研修で還元、共有することで、学校全体でICT機器を活用しているようとする雰囲気が出てきたと考えます。</li> <li>ICTテクニカルスタッフを活用することで、教員のICT機器に対する抵抗感が薄れてきたと考えています。</li> </ul>	<p>主な取組① 今後の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 達成終了</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充</li> <li><input type="checkbox"/> 一部見直し</li> <li><input type="checkbox"/> 大幅見直し</li> </ul>
--	---

<p>成果指標②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の中でタブレットを使うのは勉強の役に立つと回答した児童生徒の割合は95%でした。</li> <li>児童生徒もタブレットの扱いに慣れ、タブレットとノートやプリントとの使い分けを上手にしています。また、物珍しさも減ったため、タブレット機器を他の文房具と同列に感じているため、特別「役に立つ」と考えない子もいると捉えています。</li> </ul> <p>成果指標③について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを使って調べたことや学んだことをまとめ、発表することができたと回答した児童生徒の割合は71%でした。</li> <li>上記と重なるところもありますが、子どもたちは、ノートやタブレット、プリントやドリルなどいろいろな道具を使い分けて学習を進めています。</li> <li>タブレットを使って調べることは多いようですが、まとめたり発表したりする際には、ノートやプリントを使っていることも多くあります。</li> <li>場面に応じた使い方を教師も児童生徒も引き継ぎ学んでいく必要があると考えています。</li> </ul>	<p>主な取組② 今後の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 達成終了</li> <li><input type="checkbox"/> 継続・拡充</li> <li><input type="checkbox"/> 一部見直し</li> <li><input type="checkbox"/> 大幅見直し</li> </ul>
--	---

< CHECK >

<p>〈成果指標に対する自己評価とその理由〉</p> <p>成果指標で示した数値目標に達していないものがありますが、すべての数値目標の85%は達成しているため、評価を「B」としました。</p> <p>今後も、市全体でICT教育を充実させていく必要があるため、取組①を「継続・拡充」としてしています。取組②については定着してきたと考え、「達成終了」としました。ICTテクニカルスタッフについては、引き続き各学校の要請に応えやすい仕組みを提供していきます。</p>
--

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、授業やドリル学習で活用する各種アプリに関わる研修を実施し、目的を明確にした端末の活用等、活用にかかる質の向上を図ります。</li> <li>また、新たな具体的な取組としては、ICT活用実践事例の共有・活用支援を整えたいと考えています。</li> </ul>
----------------	---

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育		主管理	社会教育課
施策	1 子どもを主語にした学びの推進	関係課	
事業	(4) 自然体験活動の推進		
事業目的	別府市教育委員会は、子どもたちに家庭や学校では得がたい、ネイチャーゲームや工作などの自然体験活動の機会を提供します。		
	事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか。 成果指標(アウトカム)		成果指標①…市内各幼稚園及び小学校と、自然を含む体験活動ができる講師をつなぎ、各ニーズに応じた場の設定を行うことで、自然体験活動の推進を図ります。自然体験活動に参加した園・小学校の割合60%以上。

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どこ、どれくらいの頻度で	取組指標に対する取組の状況
「地球温暖化」「自然保護」「自然観察と体験学習」等の専門的な知識を持つ、大分県環境教育アドバイザーと連携した自然体験活動の実施	別府市教育委員会は、大分県環境教育アドバイザーの協力を得て、市内幼稚園及び小学校へ自然体験活動への参加を促し、生涯学習を推進します。	令和6年5月に各幼稚園、小学校に向けて実施要項を送付しました。また、9月の校長・所長会議でリマインドを行いました。 ・活動の申し込みは市内幼稚園1園、小学校2校でした。

< DO >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)
<p>&lt;分析&gt; 成果指標①について ○自然体験活動に参加した幼稚園、小学校は、市内幼稚園、小学校28校のうち、1幼稚園2小学校の3校の参加で、参加した割合は3/28≒11%、成果指標の達成割合は11%/60%≒18.3%の達成率となりました。 ・昨年参加した幼稚園からは好評であったため、今年度も継続して申込があると考えていた部分がありました。プログラムの内容についてもっと丁寧な周知が必要でありました。 ・また、現在は市内の5年生が自然体験活動として、県立九重少年自然の家や香々地青少年の家を利用して自らがほとんど「生きる力」を育成するために、幼稚園や小学校の低学年のうち活動する大切さを、伝えることができなかつたことも要因と考えられます。 ・事後に行ったアンケートでは、「自然観察をする際の視点を見つめることができ、自然に対する意欲が増している」や「子どもが自ら考えたり主体的に取り組めるようなヒントを得られた」など肯定的な回答が100%であり、事業の内容としては有意義であったと考えられています。</p> <p>&lt;成果指標に対する自己評価とその理由&gt; C ・当初の目標として、「自然体験活動に参加した園・小学校の割合60%」を大きく下回る結果となりましたので、評価はCとしました。</p>

< CHECK >

主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input checked="" type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	現状では、目標値に大きく届いていないため、活用できる事例を提示したり、講師の選定に関する内容を詳細に提示する、学習活動に関する内容を提案する、体験活動を通して育まれる力を伝える、などの改善案が考えられます。
----------------	---

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育	主 管 課	学校教育課
施 策	2 自律した子どもが育つ学びの推進	
事 業	(1) 子ども自らが作る学校生活の推進	
事業目的	別府市教育委員会は、学級活動・児童会・生徒会活動等の様々な集団活動を通して、子どもたちが学級や学校の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり実践したりすることで、自治的能力や積極的に社会参画する力を育てるよう学校への支援を行います。	成果指標①…学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答する児童生徒の割合80%以上 成果指標②…生徒が主体的に行った校則の見直しについて、HPや通信等を活用して周知を行っている学校の割合100%

< PLAN >

成果指標①に近づくための主な取組①	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で 別府市教育委員会は、別府市小・中学校教育課程研究協議会特別活動部会の指導員及び部長と、事業推進のための連絡会を開催します。	取組指標に対する取組の状況 連絡会として別府市小・中学校教育課程研究協議会を3回開催しました。
成果指標②に近づくための主な取組②	主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で 別府市教育委員会は、中学校生徒指導主事会において、生徒会を中心とした校則等の見直しを行う活動を通して、生徒の自治的能力向上の取組を推進するよう支援します。	取組指標に対する取組の状況 生徒指導主事会において、校則やインターネット利用の約束など、学校生活のきまりの見直しについて、生徒の意見を生徒会が集約するなど、生徒会を中心とした取組となるよう啓発を行いました。

< DO >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価) 〈分析〉 成果指標①について ○学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答する児童生徒の割合は、小学校が84%、中学校が88.3%でした。 ・連絡会として別府市小・中学校教育課程研究協議会特別活動部会を3回開催しました。そこで、講師を招いた研修や、各校の取り組みを交流しました。その内容を実際の授業や、校内研修に還元し、学級活動・児童会、生徒会活動等の充実を図ってきたことが、子どもたちに課題を見出し、解決するために話し合う力をつけたと考えています。 成果指標②について ○生徒が主体的に行った校則の見直しについて、HPや通信等を活用して周知を行った学校の割合は42.9%(3/7校)でした。 ・成果指標の達成率は低い水準となりましたが、生徒が主体的に校則の見直しを行った学校の割合は71.4%(5/7校)で、残りの2校も昨年度見直しを実施していましたので、この2年間で校則の見直しの実施は100%でした。成果指標ではHPや通信等を活用して周知するとしていましたが、生徒の自治的能力向上の取組としては、生徒を中心とした活発な話し合いが重要と考えていますので、令和7年度は校則などの生活に即したきまりについての見直しを、学校で起きる問題の未然防止について考えるなどの活動にもつなげ、生徒の自治的活動の活性化を図りたいと考えています。 〈成果指標に対する自己評価とその理由〉 C 二つの成果指標に対する達成率の平均は72.9%にとどまったため、評価をCとします。今年度実施した取組は事業目的達成に向けて効果的であった部分も認められたため、来年度に向けて改善し、継続・拡充したいと思えます。
--------------------------------------	--

< CHECK >

主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	・各学校での交流がしやすくなるよう「子どもたちが学級や学校の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり実践したりする」内容の焦点化を図り、各学校への支援及び学校間での交流等を実現させていきたいと考えています。 ・各種会議において、校則(学校の約束)などの見直しや、いじめなど小中学校で起こりやすい問題の防止等についての話し合いから、児童生徒の自治的能力の向上を推進するよう支援します。 ・事業目的達成に向けた、よりわかりやすい成果指標となるよう、検討を進めます。
----------------	--

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育	主管課	学校教育課
施策 事業	関係課	
3 安全で安心して過ごすことのできる学校づくり (1) 特別な支援が必要な子どもたちへの支援		
事業目的 別府市教育委員会は、学校、教職員の指導体制の充実と努めます。学校は、特別な支援を必要とする子どもに対して、生活面や学習面での適応の促進を図ります。		
成果指標①…支援員の配置によって、対象とする子どもへの適切な支援につながり、子どもに変容が見られたと、その具体的事例とともに回答した園・学校の割合が100% 成果指標②…「研修に参加したことで、今後の支援の手立てを得ることができ、実践のふりかえりと改善に役立った」と回答した参加者の割合が100% 成果指標③…日本語指導が必要な子どもへの生活面の適応、日本語学習、教科学習等の支援や指導ができてきている割合が100%		

<b>&lt; PLAN &gt;</b>	
成果指標①に近づくための主な取組①	<p>主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいどの頻度で</p> <p>市内幼稚園・小中学校に、園・学校、子どもの実情に応じた人数の支援員を配置し、特別な支援を必要とする子どもに対して、生活面や学習面での適応の促進を図ります。</p>
事業目的	<p>事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか、 成果指標(アウトカム)</p>
取組指標①に対する取組の状況	<p>昨年度の実態アンケートから、幼稚園・小中学校に支援員を50名配置し、特別な支援を必要とする子どもに対して、生活面や学習面での適応の促進を図りました。</p>
取組指標②に対する取組の状況	<p>特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員を対象とした研修会を年間1回以上実施し、支援員の専門性の向上、支援の充実を図ります。</p>
取組指標③に対する取組の状況	<p>日本語指導が必要な児童生徒等が在籍する学校(園)に、日本語指導や母語支援等を行う教育相談員、日本語指導員、及び母語支援員を配置し、対象児童生徒等に生活面の適応支援、日本語学習、教科学習等の日本語指導を行います。</p>
<b>&lt; CHECK &gt;</b>	
事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>成果指標①について ○支援員の配置によって、生活面や学習面での適応の促進が見られたと、具体的事例とともに回答した園・学校の割合が100%でした。 ・学校が回答した具体的事例としては、教室の後ろで待機しながら、気になる時に傍らで1対1対応をし、困っていることを聞いたり、できることを一緒にいたりするなどの支援を行うことで、離席の回数が減っていること、登校時に下足室に迎えに行ったり、一日の活動を伝え見通しを持たせたりするなどの支援を行うことで、集団に参加できるようになったこと、ノートに字を書くときに鉛筆で薄く字を書いてみたり、イラストや具体物などを用いて視覚支援をしたりすること、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られるようになったことなどが挙げられます。</p> <p>成果指標②について ○特別支援教育コーディネーター研修会で、専門性の向上を図ることができたと回答した割合は100%でした。特別支援教育支援員研修会で、専門性の向上を図ることができたと回答した割合は98%でした。 ・研修も専門性の向上が図れている理由として、研修にグループ協議を取り入れたり、委員や気づき、問題解決の糸口につながっていました。 ・100%にならなかった理由としては、支援員の経験年数に差があることから、講義の対象を初めの方に合わせているため、内容に昨年度との重なりが多くあったことが考えられます。</p> <p>成果指標③について ○日本語指導が必要な子どもへの生活面の適応、日本語学習、教科学習等の支援や指導ができてきている割合は100%でした。 ・日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校に、生活面の適応や日本語指導の支援を行う教育相談員を派遣しました。児童生徒の日本語能力や困りの状況に応じて支援時間を配分する等、支援の充実につながるよう配慮しました。 ・児童生徒の母語や理解できる言語を用いて生活面の適応や日本語指導の支援を行う母語支援員の配置や派遣により、編入時の手厚いサポートを行うことができました。 ・日本語指導員を中心とした教育活動により、配置校の支援体制の構築が進みました。また、連絡会で日本語指導員の実践を交流することで、教育相談員や母語支援員の指導力向上を図ることができました。</p> <p>〈成果指標に対する自己評価とその理由〉 A 3つの成果指標達成率がほぼ100%であることから、評価を「A」としました。今後も、市全体で特別な支援が必要な子どもたちへの支援体制を充実させていく必要があるため、取組①②③を「継続・拡充」としました。</p>

成果指標①に近づくための主な取組②	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいどの頻度で</p> <p>特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員を対象とした研修会を年間1回以上実施し、支援員の専門性の向上、支援の充実を図ります。</p>
事業目的	<p>事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか、 成果指標(アウトカム)</p>
取組指標①に対する取組の状況	<p>昨年度の実態アンケートから、幼稚園・小中学校に支援員を50名配置し、特別な支援を必要とする子どもに対して、生活面や学習面での適応の促進を図りました。</p>
取組指標②に対する取組の状況	<p>特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員を対象とした研修会を年間1回以上実施し、支援員の専門性の向上、支援の充実を図ります。</p>
取組指標③に対する取組の状況	<p>日本語指導が必要な児童生徒等が在籍する学校(園)に、日本語指導や母語支援等を行う教育相談員、日本語指導員、及び母語支援員を配置し、対象児童生徒等に生活面の適応支援、日本語学習、教科学習等の日本語指導を行います。</p>
<b>&lt; ACTION &gt;</b>	
事業目的達成に向けた改善策等	<p>・特別支援教育支援員の欠員が生じることが判明した段階で、速やかに別府市ホームページやハローワークにて募集及び補充を行います。 ・特別支援教育支援員を対象とした研修会では、事前に講話内容についてアンケートを実施し、より支援員の実態に即した研修とします。 ・教育相談員の派遣、日本語指導員・母語支援員の配置により生活面の適応支援や日本語指導を随時行っていますが、依然として年度途中の編入等で日本語能力レベル2(サブバイバル)日本語ができる段階以下の子どもの増加が見られ継続的な支援が必要な状況があります。したがって、教育相談員の支援時間数の増加、母語支援員や日本語指導員の効果的な運用等により外国人児童生徒等教育の拡充を図っていく必要があります。</p>

成果指標①に近づくための主な取組③	<p>主な取組③に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいどの頻度で</p> <p>別府市教育委員会は、日本語指導が必要な児童生徒等が在籍する学校(園)に、日本語指導や母語支援等を行う教育相談員、日本語指導員、及び母語支援員を配置し、対象児童生徒等に生活面の適応支援、日本語学習、教科学習等の日本語指導を行います。</p>
事業目的	<p>事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか、 成果指標(アウトカム)</p>
取組指標①に対する取組の状況	<p>昨年度の実態アンケートから、幼稚園・小中学校に支援員を50名配置し、特別な支援を必要とする子どもに対して、生活面や学習面での適応の促進を図りました。</p>
取組指標②に対する取組の状況	<p>特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員を対象とした研修会を年間1回以上実施し、支援員の専門性の向上、支援の充実を図ります。</p>
取組指標③に対する取組の状況	<p>日本語指導が必要な児童生徒等が在籍する学校(園)に、日本語指導や母語支援等を行う教育相談員、日本語指導員、及び母語支援員を配置し、対象児童生徒等に生活面の適応支援、日本語学習、教科学習等の日本語指導を行います。</p>
<b>&lt; CHECK &gt;</b>	
事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>成果指標①について ○支援員の配置によって、生活面や学習面での適応の促進が見られたと、具体的事例とともに回答した園・学校の割合が100%でした。 ・学校が回答した具体的事例としては、教室の後ろで待機しながら、気になる時に傍らで1対1対応をし、困っていることを聞いたり、できることを一緒にいたりするなどの支援を行うことで、離席の回数が減っていること、登校時に下足室に迎えに行ったり、一日の活動を伝え見通しを持たせたりするなどの支援を行うことで、集団に参加できるようになったこと、ノートに字を書くときに鉛筆で薄く字を書いてみたり、イラストや具体物などを用いて視覚支援をしたりすること、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られるようになったことなどが挙げられます。</p> <p>成果指標②について ○特別支援教育コーディネーター研修会で、専門性の向上を図ることができたと回答した割合は100%でした。特別支援教育支援員研修会で、専門性の向上を図ることができたと回答した割合は98%でした。 ・研修も専門性の向上が図れている理由として、研修にグループ協議を取り入れたり、委員や気づき、問題解決の糸口につながっていました。 ・100%にならなかった理由としては、支援員の経験年数に差があることから、講義の対象を初めの方に合わせているため、内容に昨年度との重なりが多くあったことが考えられます。</p> <p>成果指標③について ○日本語指導が必要な子どもへの生活面の適応、日本語学習、教科学習等の支援や指導ができてきている割合は100%でした。 ・日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校に、生活面の適応や日本語指導の支援を行う教育相談員を派遣しました。児童生徒の日本語能力や困りの状況に応じて支援時間を配分する等、支援の充実につながるよう配慮しました。 ・児童生徒の母語や理解できる言語を用いて生活面の適応や日本語指導の支援を行う母語支援員の配置や派遣により、編入時の手厚いサポートを行うことができました。 ・日本語指導員を中心とした教育活動により、配置校の支援体制の構築が進みました。また、連絡会で日本語指導員の実践を交流することで、教育相談員や母語支援員の指導力向上を図ることができました。</p> <p>〈成果指標に対する自己評価とその理由〉 A 3つの成果指標達成率がほぼ100%であることから、評価を「A」としました。今後も、市全体で特別な支援が必要な子どもたちへの支援体制を充実させていく必要があるため、取組①②③を「継続・拡充」としました。</p>

成果指標①に近づくための主な取組③	<p>主な取組③に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいどの頻度で</p> <p>別府市教育委員会は、日本語指導が必要な児童生徒等が在籍する学校(園)に、日本語指導や母語支援等を行う教育相談員、日本語指導員、及び母語支援員を配置し、対象児童生徒等に生活面の適応支援、日本語学習、教科学習等の日本語指導を行います。</p>
事業目的	<p>事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか、 成果指標(アウトカム)</p>
取組指標①に対する取組の状況	<p>昨年度の実態アンケートから、幼稚園・小中学校に支援員を50名配置し、特別な支援を必要とする子どもに対して、生活面や学習面での適応の促進を図りました。</p>
取組指標②に対する取組の状況	<p>特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員を対象とした研修会を年間1回以上実施し、支援員の専門性の向上、支援の充実を図ります。</p>
取組指標③に対する取組の状況	<p>日本語指導が必要な児童生徒等が在籍する学校(園)に、日本語指導や母語支援等を行う教育相談員、日本語指導員、及び母語支援員を配置し、対象児童生徒等に生活面の適応支援、日本語学習、教科学習等の日本語指導を行います。</p>
<b>&lt; ACTION &gt;</b>	
事業目的達成に向けた改善策等	<p>・特別支援教育支援員の欠員が生じることが判明した段階で、速やかに別府市ホームページやハローワークにて募集及び補充を行います。 ・特別支援教育支援員を対象とした研修会では、事前に講話内容についてアンケートを実施し、より支援員の実態に即した研修とします。 ・教育相談員の派遣、日本語指導員・母語支援員の配置により生活面の適応支援や日本語指導を随時行っていますが、依然として年度途中の編入等で日本語能力レベル2(サブバイバル)日本語ができる段階以下の子どもの増加が見られ継続的な支援が必要な状況があります。したがって、教育相談員の支援時間数の増加、母語支援員や日本語指導員の効果的な運用等により外国人児童生徒等教育の拡充を図っていく必要があります。</p>

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育		学校教育課	
施策	3 安全で安心して過ごすことのできる学校づくり	主管課	
事業	(2) いじめの未然防止と適切な対応・支援の推進	関係課	
事業目的	別府市教育委員会は、いじめ未然防止に向けた適切な支援を推進するとともに児童生徒の良好な人間関係を構築し、新たないじめを出不ぎない魅力ある学校づくりを推進します。		
成果指標①	事業目的の達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか。 成果指標(アウトカム)		
成果指標②	成果指標①…いじめ対策委員会等の組織的な対応によりいじめが解消した割合100% 成果指標②…「友だちはあなたのよいところを認めてくれる」と回答する児童生徒の割合90%		

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	<p>主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての小中学校において、いじめ問題に関する調査を年間3回以上実施し、いじめの実態把握に努めるように指導します。</li> <li>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフが参画した、校内いじめ対策委員会を中核とした組織的対応について、生徒指導主事や生活指導主任会における指導・助言を1回以上実施します。</li> </ul>	取組指標に対する取組の状況	いじめの問題に関する調査を年3回(各学期1回)以上実施しました。 生徒指導主事、生活指導主任会において組織的ないじめ対応への指導・助言を1回以上実施しました。
成果指標に近づくための主な取組②	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての小中学校において、短時間で行う「人間関係づくりプログラム」(構成的エンカウンターやソーシャルスキムトレーニング等)を推進するよう支援します。</li> <li>教育委員会は、効果的な取組の説明や研修を各学校に1回以上実施します。</li> <li>教育委員会は、共有フォルダに教材を保存し、各種会議で周知します。</li> </ul>	取組指標に対する取組の状況	別府市生徒指導研究会夏季研修会において、員教育センター講師に招いて研修を実施しました。 市教育相談センター指導主事が、要請があった市内3校(大平山小、香木川小、別府西中)に出向き、取組が効果的なものになるよう校内研修において指導助言を行いました。 教材を共有フォルダに保存し、各種会議等で周知しました。

< CHECK >

事業目的の達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>事業目的の達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)</p> <p>〈分析〉 成果指標①については ○いじめ解消率は70.6%(令和6年12月28日現在)であり、校種別では小学校70.8%、中学校68.7%でした(令和5年度は66.3%(小学校67.5%、中学校50.8%))※いずれも県実施「いじめ・不登校調査」より市の暫定値。 いじめ事案は、解消までに少なくとも3ヶ月の見守り期間ののち、被害児童生徒と保護者への確認を行い解消としています。上記調査において未解消としている件数には、学校の対応によりいじめ行為が止んでおり、見守り期間に入っているものを含んでいます。 市独自調査では、認知したいじめのうち、「いじめが続いていない」と回答した割合は98.8%(小学校99.1%、中学校95.0%)であり、認知したいじめのほとんどは学校が対応し、見守り期間に入っています。 ・昨年度と比較し解消率が増加しており、校内いじめ対策組織を中核とした適切な対応による成果が出ていると考えられます。</p> <p>成果指標②については ○「友だちはあなたのよいところを認めてくれる」と回答する児童生徒の割合88.1%(市独自調査より) 令和7年1月20日 ※令和5年度実績88.5% ・多くの児童生徒が自己有用感を感じていますが、「人間関係づくりプログラムの時間」で意識して取り組んでいる言葉遣いや態度などが、その他の授業や生活場面へ反映されていくことにより、成果指標の達成につながると考えています。 ・各小中学校担当者への「児童生徒の良好な人間関係づくりが推進できましたか」の項目に対して肯定的回答が100%だったことから、児童生徒たちの人間関係づくりが効果的な影響をもたらしていると考えられます。ゆえ、令和7年度はさらに発展した取組にしていこうことを目指します。</p> <p>〈成果指標に対する自己評価とその理由〉 B 2つの成果指標の達成率の平均は83.5%であり、実施した取組が一定の効果をもたらしたと考え、評価を「B」としました。</p>	<p>主な取組① 今後の展開</p> <p><input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し</p>
主な取組② 今後の展開		<p>主な取組② 今後の展開</p> <p><input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し</p>

< ACTION >

事業目的の達成に向けた改善策等	<p>いじめ防止に関する職員研修資料の提示や、いじめ防止授業に関する情報提供を行い、学校におけるいじめの未然防止や早期対応に関する啓発を行います。</p> <p>・「人間関係づくりプログラム」の各学校の取組を学校間で共有できる仕組を構築します。</p> <p>・児童生徒が「人間関係づくりプログラム」の時間に身につけた人間関係形成スキルが、学校生活の他の場面でも意識できるような取組について提案します。</p>
-----------------	---

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育	学校教育課
施策 3 「安全で安心して過ごすことのできる学校づくり」	主管課
事業 (3) 「不登校」児童生徒への支援	関係課

事業目的	別府市教育委員会は、「学校に行きづらさを感じている児童生徒」への適切な支援を推進するとともに、新たな「学校に行きづらさを感じている児童生徒」を出さない魅力ある学校づくり、母集団の質の向上を推進します。 ※別府市では、「不登校」という用語は使わず、「学校に行きづらさを感じている児童生徒」と表現しています。	事業目的の達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか。 成果指標(アウトカム) 成果指標①…学校内外の専門的な支援が受けられている「学校に行きづらさを感じている児童生徒」の割合100% 成果指標②…「友だちはあなたのよ」と回答する児童生徒の割合90% 成果指標③…「良好な人間関係づくりが推進できました。」と回答する学校の割合90%
------	---	---

成果指標に近づくための主な取組①	<p>&lt; PLAN &gt;</p> <p>主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○別府市教育委員会は、校務支援システム及び長欠生欠席理由報告書により、市内の状況を把握します。</li> <li>○別府市教育委員会は、「学校に行きづらさを感じている児童生徒」やその保護者に向けたリーフレットを年1回更新し、別府市HPで周知するとともに、学校を通じて関係する児童生徒保護者に配布します。</li> <li>リーフレットに記載している別府市における支援体制       <ul style="list-style-type: none"> <li>①別府市の相談窓口(学校教育課、教育相談センター)</li> <li>②学びの場・居場所(中学校の登校支援ルーム、ふれあいルーム・メタバースふれあいルーム、家庭訪問型アウトリーチ、フリースクール)</li> <li>③校内の支援(中学校の登校支援ルーム、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)</li> <li>④教育相談センターの支援(電話相談・来所相談、ふれあいルーム・メタバースふれあいルーム、家庭訪問型アウトリーチ)</li> <li>④他の相談窓口(子育てに関する相談窓口、経済的負担の相談窓口)</li> </ul> </li> </ul>	<p>&lt; DO &gt;</p> <p>取組指標に対する取組の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長欠生欠席理由報告書をもとに各学校の支援方針について、月1回以上、指導助言をしました。</li> <li>・「学校に行きづらさを感じている児童生徒」やその保護者に向けたリーフレット、フリースクールの補助金に関する情報を関係保護者に周知を行いました。</li> <li>・学びの場・居場所としてのふれあいルーム、メタバースふれあいルーム、中学校の登校支援ルーム、さらに学生ボランティアによる家庭訪問型アウトリーチ支援を行いました。</li> </ul>
------------------	---	--

成果指標に近づくための主な取組②	<p>&lt; PLAN &gt;</p> <p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>○すべての小中学校において、短時間で行う「人間関係づくりプログラム」(構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等)を推進するよう支援します。</p> <p>・別府市教育委員会は、効果的な取組の説明や研修を各学校に1回以上実施します。</p> <p>・別府市教育委員会は、共有フォルダに教材を保存し、各種会議で周知します。</p>	<p>&lt; DO &gt;</p> <p>取組指標に対する取組の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導研究会夏季研修会において、県教育センター指導主事を講師に招いて研修を実施しました。</li> <li>・市教育相談センター指導主事が市内3校(大平山小、春木川小、別府西中)に出向き、取組が効果的なものになるよう教職員研修において指導助言を行いました。</li> <li>・教材を共有フォルダに保存し、各種会議で周知しました。</li> </ul>
------------------	---	--

< ACTION >	<p>事業目的達成に向けた改善策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校に行きづらさを感じている児童生徒、その保護者」に対する支援等をまとめたリーフレットを県内のフリースクールにも配布し、関係保護者に情報が伝わるようにします。</li> <li>・学校に登校できていない児童生徒の学力保障(学びの場)の仕組みを構築します。</li> <li>・「人間関係づくりプログラム」の各学校の取組を学校間で共有できている仕組みを構築します。</li> <li>・児童生徒が「人間関係づくりプログラム」で身につけた人間関係形成スキルをその他の授業や生活場面で意識できるように提案します。</li> </ul>
------------	---

<p>&lt; CHECK &gt;</p> <p>事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)</p> <p>(分析)</p> <p>成果指標①について ○学校内外の専門的な支援が受けられている「学校に行きづらさを感じている児童生徒」の割合(長欠報告書)令和7年1月10日現在 小:91.3%(63/69)、中:75.1%(133/177)、小中:79.7%(196/246) ※令和5年度実績 小中:71.6% ・各学校から毎月提出される長欠報告書を分析し、教育委員会が各学校に指導助言を行い、それをもとに各学校が不登校対策会議で支援方針の見直しを行いました。そのことにより、専門的な支援が受けられている児童生徒の割合が昨年度同時期と比較し、8.6%増加しました。一方、学校に行きづらさを感じている児童生徒及び保護者に支援に関する情報の周知が十分でなかったことが今回の数値の要因であると考えます。</p> <p>成果指標②について ○「友だちはあなたのよ」ところを認めてくれている。」と回答する児童生徒の割合88.1%(市独自調査より)令和7年1月20日 ※令和5年度実績88.5% ・児童生徒が「人間関係づくりプログラム」の時間で意識して取り組んでいる言葉遣いや態度などが、その他の授業や生活場面へ反映されるまでに至っていないことが今回の数値の要因であると考えています。</p> <p>成果指標③について ○「良好な人間関係づくりが推進できた。」と回答する学校の割合100%(市独自調査より)令和7年1月20日 ※令和5年度実績92.3% ・本取組の目的等が教員に理解され、決まった時間で実施されるようになり、年間を通じて、継続的に取り組みが進んだことが今回の数値の要因であると考えます。</p> <p>(成果指標に対する自己評価とその理由) B 3つの成果指標の達成率の平均が93.0%であり、成果指標を概ね達成したと考えたため、評価を「B」としました。 ◎93.0%(260.5%/280%) ○79.7%(79.7%/100%) ○98.3%(88.5%/90%) ○102.6%(92.3%/90%)</p>	<table border="1"> <tr> <td>主な取組① 今後の展開</td> <td> <input type="checkbox"/> 達成終了  <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充  <input type="checkbox"/> 一部見直し  <input type="checkbox"/> 大幅見直し         </td> </tr> <tr> <td>主な取組② 今後の展開</td> <td> <input type="checkbox"/> 達成終了  <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充  <input type="checkbox"/> 一部見直し  <input type="checkbox"/> 大幅見直し         </td> </tr> </table>	主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し	主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し				
主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し				

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育	教育政策課
施策	主管課
3 安全で安心して過ごすことのできる学校づくり	関係課
事業	
(4) 小・中学校における食育の推進	
事業目的	別府市教育委員会は、「別府市立学校における食育推進計画」に基づき、栄養教諭を担当校制とし、栄養教諭を活用した食育活動が充実するよう学校を支援します。
事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか、成果指標(アウトカム)	成果指標①…栄養教諭等を活用した食育を実施した学級の割合60%以上 成果指標②…食に関する理解が進んだと回答する児童生徒の割合70%以上

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	取組指標に対する取組の状況
栄養教諭等の専門性を活用した食育授業の実施	全ての学校において栄養教諭の食に関する指導が実施できるよう、担当校制を継続し、教科カリキュラムにおいて栄養教諭が担当できる単元を提案し、各校の食育・給食指導主任と食に関する指導計画を立て、各学校1学年1回以上実施します。	栄養教諭等を活用した食育授業を述べ273回実施し、食育に関する実践的な指導ができた学級は226学級(市立小中学校の90%)となりました。

< DO >

成果指標に近づくための主な取組②	主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	取組指標に対する取組の状況
「別府市立学校における食育推進計画」に基づく食育の推進	・各校食育・給食指導主任が他校及び教育委員会担当課と情報共有を図れるよう年2回以上連絡会を開催します。 ・栄養教諭や給食センターから提供された食育掲示物等の資料を委員会活動等に活用して、毎月掲示するなどし、食の指導を行うよう支援します。	・食育に関する連絡会を年2回開催しました。 ・各小中学校へ食育ポスターや夏野菜クイズなどの食育掲示物等を毎月資料として提供しました。

< CHECK >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	主な取組① 今後の展開	
<p>〈分析〉</p> <p>成果指標①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○栄養教諭等による食に関する指導は、全体の90%の学級で実施できました。</li> <li>・各学校の食育担当者との連絡会(食育主任会)を年2回開催し、別府市の食育体制や栄養教諭の活用についての説明を通して、食育推進計画についての共通理解を図ることができました。</li> <li>・その結果、専門知識を有する栄養教諭による食の指導に対する認識が高まり、学校において2回以上の授業依頼が小学校で43学級ありました。</li> <li>・中・小学校においては、学年集会や全校集会、給食放送など中学校の実情に応じた食育指導の依頼がありました。</li> <li>・一方、年間で一度も食育授業を実施できなかった学級数は24学級ありました。授業時間の確保が難しい学校においては、給食時間の訪問等を利用し、給食指導などを周知していきたいと考えます。</li> </ul> <p>成果指標②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食に関する理解が進んだと回答する児童生徒は91%でした。</li> <li>・6年生の食育授業で、栄養バランスや献立作成のポイントを、給食の献立を作成し、3学期の献立に25回入れることができました。「自分たちで作成した献立が学校の給食に提供される」という経験は、児童にとっても食に関する貴重な経験となりました。</li> <li>・食育授業後のアンケート結果では「授業の内容が理解できた」と91%の児童生徒が回答しました。授業後に苦手なものでも食べようとする意識を持つたり、また、自分の体に必要な栄養素やそれを含む食材に対する理解ができたことがアンケート結果より見えたため、児童生徒の食に関する理解度を高める指導ができたと考えます。</li> <li>・新たな授業内容として、給食ができるまでの様子をズームでつなぎ、毎日の給食がどのようにつくられているかをリアルタイムで伝えることができました。大量調理の様子が映像を通して伝わり、子ども達から「これからは残さず食べます」という声があり、感謝の心を育むことができました。</li> <li>・各学校1学年1回以上の取組指標としていたが、未実施の学校が1校あるため、現在日程調整しており、3学期末までに訪問予定です。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し	
	<p>〈成果指標に対する自己評価とその理由〉</p> <p><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学級2回以上の食育授業を実施している学級も増え、今後さらに食に関する授業実践が必要と認識されています。</li> <li>・成果指標を達成できたため評価は「A」とし、今後も食育主任会での食に関する指導計画の充実を図るとともに、栄養教諭以外の食育担当者による指導についても支援していきます。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	今年度設定した成果指標の達成にむけて食育授業・給食指導・給食集会など様々な食育の取組を行いました。児童生徒の食に関する理解を深めるためには、組織的・計画的に進めていくことが必要のため、各校の食育担当教員と担当栄養教諭が連携を図り、学校全体が食育の推進を行うことが必要と考えます。食育授業が実践できていない学級があるため、今後は食育主任会後の食育指導の進捗状況の把握をしながら、各学校へ栄養教諭による食育の取組の提案等を行うとともに、食育担当者による指導についても支援していきます。
----------------	--

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育	主管課 共生社会実現・部落差別解消推進課	関係課 学校教育課
施策 3 安全で安心して過ごすことのできる学校づくり		
事業 (5) 学校における人権教育の推進		
事業目的	別府市教育委員会は、教職員一人ひとりが、部落差別をはじめとするあらゆる人権問題に関する理解を深め、園児児童生徒の発達段階に応じた部落問題学習※を実施できるよう支援します。 ※部落問題学習とは、部落差別の問題を直接扱う学習及び、部落差別の立場に置かれた人の気持ちやほかの個人人権課題を教材として扱う学習においても、種差別の立場に置かれた人の気持ちや考えを伝えることを通じて、自分自身の生活を振り返り、差別を許さない気持ちを持ち、差別をなくしていくよう行動することができる力をはぐくむことを目的とした学習をいいます。	成果指標①…校内・校外及び人権教育研修で学んだことを授業や指導で活用していること 回答する教員の割合100% 成果指標②…児童生徒の記憶に残る人権学習の実施割合100%

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	<p>主な取組①に係る具体的な取組指標</p> <p>※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職を対象に、部落差別解消推進法の歴史的意義・目的、人権教育における管理職の役割等についての研修会を年度始めに1回開催します。</li> <li>・人権教育主任を対象に、部落差別問題についての研修会を、年4回開催します。</li> <li>・年1回開催される別府市新規採用教職員研修会において、人権尊重の理念や部落差別に対する認識を高める研修を実施します。</li> <li>・すべての小・中学校に指導主事等を派遣し、各学校のニーズ把握に努め、部落差別問題に関する内容や校内人権研修の実施方法についての指導・助言を行います。</li> </ul>	取組指標に対する取組の状況
教職員研修の充実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定していた研修会はすべて実施できました。</li> <li>・すべての小・中学校に指導主事を派遣して、部落差別問題に関する指導・助言ができました。</li> </ul>

< DO >

取組指標に対する取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定していた研修会はすべて実施できました。</li> <li>・すべての小・中学校に指導主事を派遣して、部落差別問題に関する指導・助言ができました。</li> </ul>
---------------	---

< CHECK >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等</p> <p>(分析)</p> <p>成果指標①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内・校外及び人権教育研修で学んだことを授業や指導で活用していること回答する教員の割合は89%でした。</li> <li>・89%の成果が出たのは、前年度実施の研修参加者によるアンケート等で、今後受けたい研修内容について把握し、研修を実施したこと及び、指導主事がすべての学校を訪問し、各学校のニーズを把握した研修を実施できたからだと考えます。一方、11%は「活用できなかった」と回答していることから、学校における現時点での最重要課題について、きめ細かな聞き取りと把握ができておらず、活用できなかったことが考えられます。これらことから、来年度もすべての小中学校への指導主事派遣を継続し、現状に即した指導・助言を行うとともに、可能な限り全体的な課題を網羅した研修の提供に努めます。</li> </ul> <p>成果指標②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の記憶に残る人権学習「あなたたちは学校の授業で人権について学習をしましたか」の問いに対して「学習した」と答えた児童生徒の割合は84%でした。</li> <li>・教職員取り組み調査において「発達段階に応じた人権授業を実施している」と回答した学校は100%でした。しかし、16%の児童生徒は、「覚えていない」と回答していることから、より一層質の高い、対話的で深い学びになる授業を実践することが課題だと考えます。さらに、30歳以下の教職員の26%が「人権授業の指導に不安がある」と回答していることから、若年層の教職員に対する研修内容を改善し、かつ市人部研との協働において、課題を共有し解決への取り組みを一層進めていくことが求められます。</li> </ul>
--------------------------------------	--

主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

成果指標に近づくための主な取組②	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標</p> <p>※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別府市に新たに転入した教職員を主な対象者とし、部落問題学習に係る主体的・対話的で深い学びを実現するためのスキルを学ぶ研修会を年1回実施します。</li> <li>・別府市人権教育・部落差別解消推進研究会(以下市人部研)との共催により、部落問題学習の指導案作成等を行う研修会を、年1回開催します。</li> <li>・部落問題学習習得研究会(公開授業研究会)を充実させるため、市人部研研究局会に参加し、指導・助言を行います。</li> <li>・すべての学校に指導主事等を派遣することにより、部落問題学習の授業づくりに関する困りやニーズを把握し指導・助言を行います。</li> </ul>	取組指標に対する取組の状況
部落問題学習に関する指導力の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定していた研修はすべて実施することができました。</li> <li>・市人部研の研究局会にすべて参加し、指導・助言ができました。</li> <li>・すべての小・中学校に指導主事を派遣して、授業づくりに関する指導・助言ができました。</li> </ul>

主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等</p> <p>(分析)</p> <p>成果指標①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内・校外及び人権教育研修で学んだことを授業や指導で活用していること回答する教員の割合は89%でした。</li> <li>・89%の成果が出たのは、前年度実施の研修参加者によるアンケート等で、今後受けたい研修内容について把握し、研修を実施したこと及び、指導主事がすべての学校を訪問し、各学校のニーズを把握した研修を実施できたからだと考えます。一方、11%は「活用できなかった」と回答していることから、学校における現時点での最重要課題について、きめ細かな聞き取りと把握ができておらず、活用できなかったことが考えられます。これらことから、来年度もすべての小中学校への指導主事派遣を継続し、現状に即した指導・助言を行うとともに、可能な限り全体的な課題を網羅した研修の提供に努めます。</li> </ul> <p>成果指標②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の記憶に残る人権学習「あなたたちは学校の授業で人権について学習をしましたか」の問いに対して「学習した」と答えた児童生徒の割合は84%でした。</li> <li>・教職員取り組み調査において「発達段階に応じた人権授業を実施している」と回答した学校は100%でした。しかし、16%の児童生徒は、「覚えていない」と回答していることから、より一層質の高い、対話的で深い学びになる授業を実践することが課題だと考えます。さらに、30歳以下の教職員の26%が「人権授業の指導に不安がある」と回答していることから、若年層の教職員に対する研修内容を改善し、かつ市人部研との協働において、課題を共有し解決への取り組みを一層進めていくことが求められます。</li> </ul>
--------------------------------------	--

主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別府市人権教育・部落差別解消推進研究会と協働し、部落問題学習の指導案作成に伴う指導・助言を継続して行います。</li> <li>・各校に対する人権研修、人権教育主任研修、校長・所長研修、別府市新採用・転入職員研修など、それぞれのキャリアアップステージに合わせた研修を企画、実施します。</li> <li>・「人権授業の指導に不安がある」と感じている若年層教職員のニーズを把握し、それに応じた研修を企画、実施します。</li> </ul>
----------------	--

基本方針1(教育大綱 柱1) 「学び、育つ」ことを重視した教育		学校教育課	
施策	4 子どもと向き合う時間を確保する取組の推進	主管課	関係課
事業	(1) 教職員の業務改善の推進		
事業目的	<p>①別府市教育委員会は、学校関係者との意見交換会を開催し業務改善に向けた課題を明確にするとともに、校長所長会議等を紹介し、課題及び取組とその進捗状況を共有しているとともに、各学校での取組の推進を啓発することで、別府市立学校業務改善計画第2期の達成を目指します。</p> <p>②別府市教育委員会は、部活動指導員を効果的に配置し、市内各中学校における部活動の活性化や質的向上を目指すとともに、多忙化・複雑化する学校現場での教職員の負担軽減を図ります。</p>	<p>事業目的の達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか。 成果指標(アウトカム)</p>	<p>成果指標①…1か月の時間外在校時間80時間超過の教職員の割合0% 成果指標②…指導員が配置された当該部活動の顧問教諭が部活動指導に携わる時間の削減率40%以上</p>

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	<p>主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>別府市教育委員会は、学校業務改善計画に係る学校関係者との意見交換会を年2回開催します。</p>	取組指標に対する取組の状況
外部人材を活用した部活動指導	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>別府市教育委員会は、部活動指導員を中学校に12名、配置民間企業委託による部活動指導を行う地域指導員を11名を配置します。また、部活動の地域移行に向けた関係者との協議を年1回以上行います。</p>	<p>取組指標に対する取組の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動指導員を12名、地域指導員を11名配置することができました。</li> <li>・地域移行に向けて、クラブの指導者や地域クラブ設立希望者、株式会社リーフラスと各1回協議を行いました。</li> </ul>

< DO >

<p>事業目的の達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)</p> <p>&lt;分析&gt; 成果指標①について ○1か月の時間外在校時間が80時間を超過した教職員の割合が、現時点で1.4%でした。 ・教職員の不足により担当業務が増えたり、教頭の業務内容が多かったりし、時間外在校時間が増えた学校もありました。 ・学校行事や公開研究会に向けての準備、緊急の生徒指導案件への対応等により時間外在校時間が増える月もありました。 ・意見交換会で出された意見については、校長・所長会議で示し、その中でも文書関係、調査・アンケート、作品募集等、多く出された意見については、その内容や量について精選、見直しを図り、教育委員会内対応事項として共有しました。 ・スクールサポートスタッフを19名配置し、教職員の負担軽減を図りました。 ・今後とも別府市立学校業務改善計画に基づき、目標の0%に近づけるよう取組を進めていきます。</p> <p>成果指標②について ○指導員が配置された当該部活動の顧問教諭における部活動指導に携わる時間の削減率は64%でした。(部活動指導員配置部59%、地域指導員配置部67%) ・設定した指標を上回り高い達成率となりました。今後も、部活動指導員、地域指導員の活用を周知徹底を図ることで、削減率100%を目指し、多忙化・複雑化する学校現場での教職員の負担軽減を図っていきます。</p>	<p>&lt;成果指標に対する自己評価とその理由&gt; <b>B</b> ・成果指標で示した数値目標に達していないものがあることから、評価を「B」としました。</p>
---	--

< CHECK >

主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別府市立学校業務改善計画第3期策定に向け、第2期の総括をします。教職員の長時間勤務のさらなる是正に向け、時間外在校時間が多くなる月がないよう、業務内容の削減や教育課程・学校行事の見直しを行うなど、今年度までの課題解消を意識した取組の構想を練ります。</li> <li>・部活動指導に係る教職員の負担軽減を図るために、予算の拡充を図り、外部からの部活動(地域)指導員の増員を行っていきます。</li> <li>・部活動の地域移行に向けた検討委員会を設立し、令和13年度末に向けた部活動の地域展開のロードマップについて検討するとともに、地域クラブの設立に向け、関係者・関係団体等との協議を進めていきます。</li> </ul>
----------------	---

基本方針2(教育大綱 柱2) 地域に学び、地域で育み、地域を創る教育		主管課	学校教育課
施策	1 地域社会と学校の連携・協働の推進	関係課	社会教育課
事業	(1) コミュニティ・スクールの推進		
事業目的	別府市教育委員会は、学校運営協議会が「社会に開かれた教育課程」の実現や学校の課題解決のための熟議の場となるように助言等を行い、学校と地域住民が力を合わせて学校運営に取り組んでいけるよう支援します。		
	事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか。 成果指標(アウトカム)		成果指標①…「地域と協働した取組が十分にできた」と回答した学校運営協議会の割合100%

< CHECK >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	主な取組① 今後の展開
<p>事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)</p> <p>〈分析〉</p> <p>成果指標①について</p> <p>○「学校評価の4点セット」の地域に関する項目の評価から「地域と協働した取組が十分にできた」学校運営協議会の割合は90%でした。「学校評価の4点セット」には、学校の教育目標の達成や学校教育課題の解決に向けて、重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標の4要素で構成されている目標達成マネジメントツールです。学校運営協議会では、この4点セットにより、目標の修正、取組の検証等が熟議されています。</p> <p>・学校運営協議会(年6回程度)や中学校区連絡会(年2回)を計画的に開催し、「学校評価の4点セット」と学校運営協議会を連動させ、そこで協議や熟議を行うことで、各学校の教育課題に応じた地域との協働を推進しています。達成度は100%にはなりませんでしたが、学校や地域が当事者意識をもって主体的に取り組む等、取組の質の向上をめざし、各学校独自の創意・工夫を図っている過程にあります。</p> <p>・指導主事・社会教育主事が各学校の学校運営協議会や中学校区連絡会に参加し、学校の教育目標の達成や学校教育課題の解決に向けた取組等の助言や好事例の紹介を行うことは、地域と協働した取組の推進の一助となっています。</p>	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し

< DO >

成果指標に近づくための主な取組①	取組指標に対する取組の状況
指導主事・社会教育主事による学校運営協議会や中学校区連絡会(関係小中学校の学校運営協議会委員で構成)への参加と指導助言	指導主事・社会教育主事が、学校運営協議会や中学校区連絡会に参加し、助言や好事例の紹介等を行いました。

< PLAN >

主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	取組指標に対する取組の状況
別府市教育委員会の指導主事・社会教育主事が、学校運営協議会(年6回程度開催)や中学校区連絡会(年2回開催)に参加し、啓発方法についての助言や取組及び取組指標の見直し、好事例の紹介等を行うことで、地域と協働した取組の推進を図ります。	指導主事・社会教育主事が、学校運営協議会や中学校区連絡会に参加し、助言や好事例の紹介等を行いました。

〈成果指標に対する自己評価とその理由〉 B

各学校の地域と協働した取組の実施状況について、「学校評価の4点セット」の地域に関する評価(S・A・B・C)について、目標値をS・Aの80%以上を「十分にできた」としたとき、2校が80%未満であったことから、達成度が90%となり評価を「B」としました。4点セットと学校運営協議会を連動させ、そこで協議や熟議をもとに地域と協働した取組がさらに充実するよう、継続・拡充が必要と考えます。

※学校運営協議会は、地域住民、保護者、学識経験者、行政職員等で構成された委員が、一定の権限と責任を持って、学校の運営とのために必要な支援について協議する会議のことです。

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	学校運営協議会が「社会に開かれた教育課程」の実現や学校の課題解決のための熟議の場となり、「地域と協働した取組が十分にできた」と回答できるよう、指導主事・社会教育主事による中学校区連絡会及び学校運営協議会への参加を継続し、好事例の紹介や助言等を行っていく必要があります。
----------------	--

基本方針2(教育大綱 柱2) 地域で学び、地域で育み、地域を創る教育		主管理	社会教育課
施策	1 地域社会と学校の連携・協働の推進	関係課	学校教育課
事業	(2) 地域教育力の活性化		
事業目的	別府市教育委員会は、「育て別府っ子！地域で育み、地域を創る」を合言葉に、地域の大人が子どもたちと関わりを持つことにより、地域のコミュニティを活性化し、地域みんなで子どもを育てる地域社会の形成を図ります。		
	事業目的の達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか。 成果指標(アウトカム)		
	地域みんなで子どもを育てる※体制70%整っている状態の公民館増 成果指標は、そのように回答する公民館100% 取組①～⑥が活性的に推進されるための基盤づくりができていますか		
	※体制70%整っている状態。以下10項目のうち7項目クリアしていること ①学校運営協議会(学校設置)と地域学校協働本部(公民館に位置付け)が連携(情報共有や協働事業の実施等)をしている ②公民館の職員が学校運営協議会に参加している ③べっふ子育てLabo(家庭教育支援・公民館)や子育て応援講座(社会教育課)の家庭教育に関する事業と連携を働いている ④他校(高校や大学等含む)と連携している ⑤青少年育成協議会市民会議との連携している ⑥社会教育関係団体(子ども会・PTA・婦人会など)と連携している ⑦自治会やひとまよりまもり協議会等と連携している ⑧ ⑤⑥⑦以外の地域で活動する団体等との連携 ⑨地域社会と学校の連携・協働の推進のための研修会に参加した ⑩地域社会と学校の連携・協働の推進のための研修会を開催した		

< PLAN >		< DO >		< CHECK >	
成果指標に近づくための主な取組①	<p>中学校区に統括コーディネーターを配置、地域学校協働活動推進員を委嘱し、学校と地域のつながりをより密にする(教育魅力化事業)</p>	<p>取組指標に対する取組の状況</p>	<p>事業目的の達成に向けて設定した成果指標の達成度等(アウトカム評価)</p>	<p>主な取組① 今後の展開</p> <p>達成終了 <input type="checkbox"/></p> <p>継続・拡充 <input type="checkbox"/></p> <p>一部見直し <input type="checkbox"/></p> <p>大幅見直し <input checked="" type="checkbox"/></p>	
<p>別府市教育委員会は、中部中学校区に統括コーディネーターを1名配置し、各中学校区(7校区)に地域学校協働活動推進員を1名ずつ委嘱します。</p>	<p>統括コーディネーターを1名配置し、地域学校協働活動推進員を6名委嘱しました。</p>	<p>○地域みんなで子どもを育てる※体制70%整っている状態の公民館(※)は、昨年度0でしたが、今年度は1増え、そのように回答する公民館は16%(1/6)となりました。【各質問において】①1/6 ②1/6 ③1/6 ④1/6 ⑤1/6 ⑥1/6 ⑦3/6 ⑧1/6 ⑨4/6 ⑩0/6】【各館においての達成率 A館0% B館30% C館10% D館10% E館70% F館20%】</p> <p>・16%に留まった理由としては、本事業の目的を達成するための準備が不十分だった地域学校協働活動推進員との連携・協働を図るための準備が不十分であったり、公民館のコーディネーター担当の研修や会議等で事業推進のための情報が伝わっていないことが考えられます。</p> <p>・登録ボランティア数を増やすため、ボランティア登録システムを取り入れ、ボランティア登録者の市内一元化を図り、新たに広報チラシを作成し、公民館や地域学校協働活動推進員と協力し、広くボランティアを募集しました。そのことにより、昨年度は228人の登録でしたが、今年度は318人と増加しました。しかし、公民館が学校ニーズに合わせてボランティアシステムの効果的な運用に繋がっていない現状がありますので、来年度、研修等により活用率をあげていく取り組みも必要と考えています。</p> <p>・補充学習の参加者実数については、取組指標に達していません。市内6637人の児童生徒のうち、より多くの必要子どもたちへの提供ができるように、実施形態や運営方法等が必要と考えています。</p>	<p>主な取組② 今後の展開</p> <p>達成終了 <input type="checkbox"/></p> <p>継続・拡充 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>一部見直し <input type="checkbox"/></p> <p>大幅見直し <input type="checkbox"/></p>		
<p>主に学校における教育活動(学校が所管する活動)に、地域住民の参画を促す(学校における地域学校協働活動)</p>	<p>取組指標に対する取組の状況</p>	<p>主な取組③ 今後の展開</p> <p>達成終了 <input type="checkbox"/></p> <p>継続・拡充 <input type="checkbox"/></p> <p>一部見直し <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>大幅見直し <input type="checkbox"/></p>			
<p>成果指標に近づくための主な取組②</p>	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p>	<p>取組指標に対する取組の状況</p>	<p>事業目的の達成に向けて設定した成果指標の達成度等(アウトカム評価)</p>	<p>主な取組② 今後の展開</p> <p>達成終了 <input type="checkbox"/></p> <p>継続・拡充 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>一部見直し <input type="checkbox"/></p> <p>大幅見直し <input type="checkbox"/></p>	
<p>○学校支援に参画するボランティア登録者数300人を目指します。 ・ボランティア活動の魅力を増やすため、広くボランティアを募集します。 ・ボランティア登録システムにより、ボランティア登録者の市内一元化を図り、これまで以上に、学校のニーズに応えられるように努めます。 ・ボランティア対象の研修会及び本事業関係者対象の研修会を実施します。 ・ボランティア担当者会議の開催(2回)により、連携・協働の強化を図ります。</p>	<p>ボランティア登録者数は318名で(R7.1月現在)300人を超えました。</p>	<p>主な取組③ 今後の展開</p> <p>達成終了 <input type="checkbox"/></p> <p>継続・拡充 <input type="checkbox"/></p> <p>一部見直し <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>大幅見直し <input type="checkbox"/></p>			
<p>成果指標に近づくための主な取組③</p>	<p>主な取組③に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p>	<p>取組指標に対する取組の状況</p>	<p>事業目的の達成に向けて設定した成果指標の達成度等(アウトカム評価)</p>	<p>主な取組③ 今後の展開</p> <p>達成終了 <input type="checkbox"/></p> <p>継続・拡充 <input type="checkbox"/></p> <p>一部見直し <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>大幅見直し <input type="checkbox"/></p>	
<p>子どもたちの補充学習の機会を提供(放課後トライ)</p>	<p>○参加者(児童・生徒)実数400人、参加者(地域ボランティア)実数100人を目指します。 ・学習内容等の魅力化を図ります。 ・実施形態、運営方法等、現在のニーズにあったものへの変更実施を促します。</p>	<p>参加者(児童・生徒)実数280人、参加者(地域ボランティア)実数90人でした。</p>	<p>事業目的の達成に向けて設定した成果指標の達成度等(アウトカム評価)</p>	<p>主な取組③ 今後の展開</p> <p>達成終了 <input type="checkbox"/></p> <p>継続・拡充 <input type="checkbox"/></p> <p>一部見直し <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>大幅見直し <input type="checkbox"/></p>	

成果指標に近づくための主な取組④	子どもの放課後や休日・長期休業中の安心・安全な居場所づくりと様々な生活体験・自然体験活動・交流活動の機会を提供(子ども夢チャレンジ・子ども夢チャレンジ特別編・世代間交流)	主な取組④に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいどの頻度で	取組指標に対する取組の状況	主な取組④ 今後の展開
	○参加者(児童・生徒)実数400人、参加者(地域ボランティア)実数400人を目指します。 ・事業実施時(公民館)のボランティアの活用増 ・実施例提示やコーディネーター研修等により実施内容の魅力化 ・本取組みに関して学校との連携強化への取組 ・本取組みの広報	子どもの様々な活動の参加者(児童・生徒)実数は400人、参加者(地域ボランティア)実数200人でした。		達成終了 継続・拡充 一部見直し 大幅見直し
成果指標に近づくための主な取組⑤	地域住民の参画を促し、家庭教育に関する学習機会の提供や保護者への相談対応、情報提供等を行うネットワーク支援のネットワークを組織(べっぴん子育てLabo)	主な取組⑤に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいどの頻度で	取組指標に対する取組の状況	主な取組⑤ 今後の展開
	○べっぴん子育てLabo数6を目指します。 ・本取組みに関して別府子育てLaboの関係各所との連携・協働の強化への取組 ・みんなでべっぴん子育てLabo(市内全体の会)の年間実施3回と内容の充実によりネットワーク強化への取組 ・本取組みの広報	べっぴん子育てLabo数5です。		達成終了 継続・拡充 一部見直し 大幅見直し

＜成果指標に対する自己評価とその理由＞ C

・成果指標に示した姿には達していないことから、評価を「C」としました。地域みんなど子どもを育てる地域社会の形成の必要性から、本事業は継続してまいります。より効果的に推進していくために各取り組みの見直しが必要と考えます。

事業目的達成に向けた改善策等	より効果的にスピーディーに、事業推進していくために、学校(教職員や子ども)・家庭(保護者)・地域(地域住民・公民館等)をつなぐ役割を担い、地域教育に関わりたいと考えている地域住民を養育・養成し、地域教育力の向上に努める地域教育魅力化コーディネーターを各公民館に1名ずつ配置します。また、各中学校区を担当する地域学校協働活動推進員を委嘱し、将来的には、全小中学校21校それぞれを担当する21名の委嘱を目指します。そのことにより、学校・家庭・地域の連携がより強まり、地域の活性化、そして地域みんなどを育てる地域社会の形成に繋がると考えます。また、子どもの補充学習や様々な活動の機会の提供に関しては、実施形態や実施方法の見直しにより、必要としているより多くの子どもたちに機会を届ける工夫が必要と考えます。
----------------	---

基本方針2(教育大綱 柱2) 地域に学び、地域で育み、地域を創る教育	社会教育課	主管課	社会教育課
施策 2 誰もが学ぶことができる機会をつくり、人と人がつながる社会教育の推進	関係課	関係課	学校教育課
事業 (1) 多様な主体の社会教育の推進			
事業目的 別府市教育委員会は、活力ある社会の構築と多様な主体の今日的な課題解決に向けた学習機会を提供します。			成果指標①…参加者事後アンケートで『自身や周りの方の家庭教育に関する課題の解決につながる内容であった』『あなた自身や周りの方の生活や地域課題などの解決につながる内容であった』との回答が90%以上

＜ PLAN ＞

成果指標に近づくための主な取組① 講座内容の魅力化	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、何を、どれくらいの頻度で ○別府市教育委員会は、講座内容の魅力化を図り、下記の2種講座を実施します。 ・子育て世代の保護者や子どもたちの活動に関わる人を対象に、家庭教育に関する課題解決のための学習機会を提供する「子育て応援講座」年間8講座開催します。 ・生活・地域の課題解決に向けた学習機会を提供することにより、学びを地域活動に還元し課題解決できる力を育み、参加者同士の交流を通して、生きがいを見つけて活力ある地域づくりをめざす「湯のまち学びのカレッジ」を年間51講座開催します。	取組指標に対する取組の状況 目的達成を目指した「子育て応援講座」年間8講座、「湯のまち学びのカレッジ」年間51講座開催しました。
------------------------------	--	---

＜ DO ＞

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>＜分析＞</p> <p>成果指標①について ○子育て応援講座の参加者事後アンケートで『自身や周りの方の家庭教育に関する課題の解決につながる内容であった』との回答が97%、湯のまち学びのカレッジの参加者事後アンケートで『あなた自身や周りの方の生活や地域課題などの解決につながる内容であった』との回答が92%となりました。</p> <p>・講座の内容や講師選定について、選定基準を明確化し、その基準に則った講座開催を徹底したこととの成果指標への影響は大きいと考えます。</p> <p>・SNS投稿数は100を目標にしていきましたが、60投稿となり達成できませんでした。取り組みを市民に広報することは、大変重要です。効率よく効果的に広報していくことのできるSNSの活用をもっと活性化させていく工夫を考え実行していく必要があると考えます。</p> <p>＜成果指標に対する自己評価とその理由＞ A 成果指標で示した姿に達したことから、評価は「A」としました。活力ある社会の構築と多様な主体の今日的な課題解決に向けた学習機会提供の必要性から、本事業は継続が妥当と思われるが、より多くの市民に学習機会を提供するための取り組みも必要と考えます。そこで、取組①を「一部見直し」にしました。また、改善の余地があると考え、取組②を「一部見直し」にしました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>主な取組① 今後の展開</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>達成終了</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>継続・拡充</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>一部見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>大幅見直し</td> </tr> </table>	主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/>	達成終了		<input type="checkbox"/>	継続・拡充		<input checked="" type="checkbox"/>	一部見直し		<input type="checkbox"/>	大幅見直し
主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/>	達成終了												
	<input type="checkbox"/>	継続・拡充												
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部見直し												
	<input type="checkbox"/>	大幅見直し												
成果指標に近づくための主な取組② 広報の充実	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、何を、どれくらいの頻度で ○SNS投稿数100投稿数を目指します。 ・講座開催及び実施後の広報に下記のツールを活用します。 ①SNSを活用し、広報の拡大を図ります。 ②報道・CTB等の活用により、広く周知します。 ③市報・市公式ホームページを活用します。</p>	<table border="1"> <tr> <td>主な取組② 今後の展開</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>達成終了</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>継続・拡充</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>一部見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>大幅見直し</td> </tr> </table>	主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/>	達成終了		<input type="checkbox"/>	継続・拡充		<input checked="" type="checkbox"/>	一部見直し		<input type="checkbox"/>	大幅見直し
主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/>	達成終了												
	<input type="checkbox"/>	継続・拡充												
	<input checked="" type="checkbox"/>	一部見直し												
	<input type="checkbox"/>	大幅見直し												

【選定基準～以下3つあてはまるものを採用】 講座の内容内容及び講師について

- 過去にない初めての内容・講師起用であるもの
- 昨年度参加者アンケートによる市民ニーズを叶えたもの
- 別府・別府に生きている人の課題解決に繋がるもの

＜ ACTION ＞

事業目的達成に向けた改善策等	<p>これまで引き続き、講座の内容と講師の選定に関しては、今後も各公民館の担当職員との協力により、選定基準に則り選定を継続していくことがたいへん重要で、また、湯のまち学びのカレッジに関しては、市民全般を対象としています。多世代で多様な市民の参加はまだ十分であるとは考えにくい状態です。開催時間が平日昼間の時間帯のみ開催では参加しにくかったり、開催に関する情報が行き渡っていないとの指摘もあります。開催時間の見直しや広報の工夫等、本事業の魅力や広報の工夫等を伝えること、また、SNS広報においては、効果的に時間をかけず投稿できるような投稿の仕組み等検討が必要と考えます。また、子育て応援講座に関しては、学習意欲の高い参加者への学習機会の提供に留まっていたり、学習意欲を刺激するような広報の工夫や講座開催会場の拡充も視野に入</p>
----------------	--

基本方針2(教育大綱 柱2) 地域に学び、地域で育み、地域を創る教育		社会教育課
施策	2 誰もが学ぶことができる機会をつくり、人と人がつながる社会教育の推進	主管課
事業	(2) 子どもの読書活動の推進	関係課
事業目的	別府市教育委員会は、子どもの読書活動推進計画(第3次)を基に、いつでもどこでもだれでも本と関わりが持てる環境を整備し、子どもと本をつなぐ様々な取組を実施することで、自発的に本に親しむ子どもを育みます。	健康推進課

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	<p>主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいかの頻度で</p> <p>これまで、認定子ども司書になった人数は、77人です。別府市教育委員会は、県立図書館、市立図書館と連携し、「子ども司書養成講座」に取り組み、認定子ども司書に活動の場を提供するための取組を計画・実施し、延べ100人以上の参加を目指します。</p>	取組指標に対する取組の状況
自発的に本を読みたいと思う環境の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度は「子ども司書養成講座」へ16名参加し、16名全員が子ども司書に認定されました。(合計93名)</li> <li>認定子ども司書の活動の場として、年2回小さな本屋さんの開催、ピアノオパールの募集を行いました。また、子ども読書サミットには16名の参加があり、延29名の参加になりました。</li> </ul>

< DO >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)</p> <p>【分析】</p> <p>成果指標①について          ○令和6年4月に大分県が実施した学力状況調査の回答では、「読書は好きですか」の項目に、別府市の小学5年生の69.2%、中学2年生の63.5%が肯定的な回答をしています。成果指標には届いていない状況です。          ・子ども司書養成講座に参加する児童の数は毎年ほぼ同数で推移していますので、認定子ども司書を核に、読書が好きな児童・生徒を増やしていきたいと考えています。しかしながら、認定子ども司書は増えていないにも関わらず、「読書が好き」と回答する子どもの割合が大きく伸びていないので、継続した取組が必要と考えます。</p> <p>成果指標②について          ○1歳6か月健康診査で絵本を配布し、その後の絵本との関わり方を調査する一年後の2歳6か月健康診査時に行ったアンケートでは、現時点(1月)で34/34で100%の方が、「本を読んでいる、あげている」と回答されています。          ・ブックスタート事業では「本を読んでいる、あげたい」と回答している保護者の割合が100%を維持しており、「子どものコミュニケーションに役立ちそう」と回答している方が多数いることからブックスタート事業は継続していくべきと考えます。</p> <p>成果指標③について          ○「子ども読書活動応援ボランティア研修会」参加者のアンケート結果では、72/74(97.2%)の方に肯定的な回答をいただきました。          ・「子ども読書活動応援ボランティア研修会」では、肯定的な回答が97.2%と100%は達成できていませんが、ボランティアの方たちへの有益な研修の提供ができています。継続して取り組んでいくことが重要と考えます。</p>
-----------------------------------	--

< CHECK >

主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
-------------	--

成果指標に近づくための主な取組②	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいかの頻度で</p> <p>子どもたちが自発的に本を読みたくなる環境を整え、幼少期の読書習慣の形成のため、1歳6か月健康診査(年12回)において、ブックスタート事業を実施します。また、事業を充実させるため、ブックスタートボランティアの研修を実施します。          ・全ての対象者に絵本を配布できるように、広報に努めます。</p>	取組指標に対する取組の状況
子どもたちが自発的に本を読みたくなる環境を整え、幼少期の読書習慣の形成のため、1歳6か月健康診査の保護者に絵本を手渡す「ブックスタート」事業の実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>ブックスタートボランティアに参加を希望される方を対象とした研修会を行いました。</li> <li>1歳6か月健康診査に参加された方全員に絵本を読み聞かせ体験と絵本の贈呈を実施しています。</li> <li>・CTBやHP、SNSなどを活用し、ブックスタート事業の広報に努めています。</li> </ul>

主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
-------------	--

成果指標に近づくための主な取組③	<p>主な取組③に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいかの頻度で</p> <p>別府市教育委員会では、子どもの読書活動応援ボランティア育成のための研修会を年4回実施します。</p>	取組指標に対する取組の状況
子どもの読書活動応援ボランティアの育成・活動の支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回の「子どもの読書活動応援ボランティア研修会」を当初の予定通り実施しました。</li> </ul>

主な取組③ 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
-------------	--

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	<p>・大分県学力定着状況調査の「読書が好き」の項目に肯定的な回答をしている児童生徒の数値が、身の回りに様々な興味を引くものがあるにも関わらず、下がることなく同水準であることから、子どもの読書活動推進計画に基づいて、取り組んでいる各事業について、それぞれに成果が表れていると考えられます。そのため、今年度の事業を継続しつつ、認定子ども司書の活動の場をより拡充していくことが必要であると考えます。子どもの読書活動応援ボランティア研修会では、今後も参加者のニーズに応えられる研修会を継続することで、ボランティアのスキルアップにつなげていく必要があると考えます。</p>
----------------	--

基本方針2(教育大綱 柱2) 地域に学び、地域で育み、地域を創る教育	学校教育課
施策	主管課
事業	関係課
事業目的	社会教育課
事業目的達成に向けての取組	成果指標①…別府のことを学習して、別府の町や地域のことがこれまでよりも好きになったと回答する児童生徒の割合が95%以上 成果指標②…「湯けむり歴史講座」に参加して別府の歴史や文化に対して知識を深めることができたという回答する参加者の割合が90%以上

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で 別府市教育委員会は、各学校での「別府学」学習資料等を活用した授業実施に向けた助言・支援を行います。	取組指標に対する取組の状況
各学校での「別府学」学習資料等を活用した授業実施に向けた助言・支援	学期に1回ずつ「別府学」学習実施状況調査を実施し、活用を促すなどの助言・指導を行いました。	

< DO >

成果指標に近づくための主な取組②	主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で 別府市教育委員会は、「湯けむり歴史講座」を年に5回実施し、市民等が様々な視点から別府を見ることで「ふるさと別府」をより深く知るために、温泉、歴史、文化とそれにかかわる人々の工夫や努力を学ぶ機会を提供に努めます。	取組指標に対する取組の状況
「湯けむり歴史講座」を学びの場として実施	令和6年度は全5回開催しました。	

< CHECK >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	事業目的達成について ○「別府のことを学習して別府の町や地域のことが、これまでよりも好きになった」と回答した児童生徒の割合は87%でした。 すべの小学校で、郷土に関する学習として「別府学」に取り組みしました。2学期末時点で、小学校では平均10.1時間、中学校では平均11.2時間「別府学」の学習が行われています。これは、学期ごとに「別府学」学習実施状況調査を行ったり、教育課程に位置付けるよう助言・指導したりしたことで、意識づけができ、教員に取組が定着してきたからだと考えられます。 ・「別府の町や地域のことがこれまでよりも好きになった」と回答した児童生徒は目標値の95%には届いていませんが、「別府をもっといい町にしたいと思う」と回答した児童生徒は95%と高い数値となっています。郷土について学習することで、別府市に対する見方が広がったり、深まったりしていると同時に、自らまちづくりを担う心が育っていると考えられます。 成果指標②について ○「湯けむり歴史講座」に参加して別府の歴史や文化に対して知識を深めることができたという回答した参加者の割合は97.8%でした。 ・全5回を平日の午後に開催しました。開催日時の関係上60代以上の参加者が多いのが現状です。また参加者アンケートの結果をもとに、聞き取りやすい内容が難しいなど個々で受け止め方が違うので講座の内容の直し直し、知りたいたい内容のニーズに配慮されるか等は一概一言でできる場としていきたいと思っております。参加者の年齢層がほぼ固定となつてしまっているため参加者の幅を広げるための開催方法を検討していきたいと思っております。
主な取組① 今後の展開	達成終了 <input type="checkbox"/> 継続・拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し <input type="checkbox"/>
主な取組② 今後の展開	達成終了 <input type="checkbox"/> 継続・拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し <input type="checkbox"/>

〈成果指標に対する自己評価とその理由〉  
B  
成果指標で示した数値目標に達していないものがあることから評価をBとしました。

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	今年度設定した成果指標の達成には届いていませんが、取組みには効果が見られますので、今後もこれら取組みを継続する中で改善を加えていきたいと思っております。また、ホームページや学校通信、学年通信へ掲載したり、成果物を校内に展示・掲示したりするなど、取組みの発信についても校長会等を通じて呼びかけをしていきます。 ・「湯けむり歴史講座」については開催日時(平日夜間、休日)や開催回数を参加者のアンケート結果に基づき検討し、より多くの市民等が参加・別府の歴史や文化に対しての知識が深められる機会を今後も提供していきます。
----------------	---

基本方針2(教育大綱 柱2) 地域に学び、地域で育み、地域を創る教育		学校教育課
施策	4 国際的な感覚を育む学びの推進	主管課
事業	(1) 国際理解教育の推進	関係課
事業目的	別府市教育委員会は、多様な人と交流する機会等を企画し、様々な地域の生活や文化を知ったり、様々な考え方に触れたりすることを通じて、広い視野と寛容な態度の育成を図ります。また、共に活動する中に自分の可能性に気づいたり、別府のよさを発信したりする機会を意図的に組み込み、グローバル化する社会に主体的に関わろうとする資質・能力の育成を図ります。	成果指標①…「多様な価値観をもった人のことを知りたい」「多様な価値観をもった人と協働してみたい」と回答する児童生徒の割合が100%

< PLAN >		< CHECK >	
成果指標に近づくための主な取組①	主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で ・別府市教育委員会は、小中学生大学キャンパス体験学習を実施し、全小中学生を対象にAPU学生との交流会(小学6年生と中学3年生は年1回APUを訪問し、互いの国や地域の紹介)を行います。 ・別府市教育委員会は、小中学生大学キャンパス体験学習を実施し、希望する小中学生(400名)を対象にAPU学生との交流活動(小中学生とAPU学生が協働し、テーマに沿ったプレゼンテーションの作成・発表)を年4回行います。	事業目的の達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	主な取組① 今後の展開
国際学生や外国語指導助手(ALT)等との学習活動を通じたグローバル人材の育成	取組指標に対する取組の状況 小中学生大学キャンパス体験学習(年1回)や小中学生大学キャンパス体験留学(年4回)を実施し、留学生等との交流活動を行いました。	<p>&lt;分析&gt;</p> <p>成果指標①について</p> <p>○小中学生大学キャンパス体験学習では、「多様な価値観をもった人のことを知りたい」「多様な価値観をもった人と協働してみたい」と回答する児童生徒の割合は98%でした。</p> <p>・交流会や、キャンパス内でのインタビュー活動を通して、多様な地域の文化や、人々の考えに触れることができ、世界に視野を広げることができました。</p> <p>○小中学生大学キャンパス体験留学では、「多様な価値観をもった人のことを知りたい」「多様な価値観をもった人と協働してみたい」と回答する児童生徒の割合は100%でした。</p> <p>・各回の参加者は少なかったが、多文化やSDGsを自分事として捉えたり、新たな発想で解決策を提案したりする等してプレゼンテーションを行うことができました。</p>	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
< ACTION >	事業目的達成に向けた改善策等		<p>&lt;成果指標に対する自己評価とその理由&gt; B</p> <p>・小中学生大学キャンパス体験学習は全ての小中学校で年1回、小中学生大学キャンパス体験留学は計画した年4回を実施することができ、取組指標を達成することができました。</p> <p>・「多様な価値観をもった人のことを知りたい」「多様な価値観をもった人と協働してみたい」と回答する児童生徒の割合は、2つの事業を合わせて99%と概ね成果指標を達成しましたが、100%に至らなかったため評価を「B」としました。</p>

基本方針3(教育大綱 柱3) 次代を生き抜く力を育む教育環境の整備		教育政策課
施策	1 生涯学習の学びの場の創造と社会教育活動を推進する環境の整備	主管課
事業	(1) 新図書館の整備・管理・運営	関係課
事業目的	別府市教育委員会は市民との対話を通して、開館までに加速的に利用登録者数や一人当たりの貸出冊数が増加することを目指し、地域課題の解決や地域コミュニティ活性化の視点をめざし、新しい時代に求められる機能を備え、活発に利用される新図書館を整備します。	現図書館のサービスについての認知度を高め、現図書館から新図書館への継続的な利用につなげる。 成果指標①…市民1人あたりの貸出3.5冊 成果指標②…図書館の登録者数45,000人

< PLAN >

成果指標に近づくための主な取組①	<p>主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>全市民を対象としたオープンプラットフォーム会議(新図書館開館に向けて市民と図書館との関係を深めていく公開型のミーティング)を年1回開催し、新図書館に関する情報をSNSを通じて年10回以上発信します。 併せて現図書館の情報や移動図書館等についても広報・発信し、登録・利用を促します。</p>	取組指標に対する取組の状況	<p>取組指標①について</p> <p>○市民1人あたりの貸出冊数2.3冊(見込み)</p> <p>○成果指標②について</p> <p>○図書館の登録者数33,500人(見込み)</p>	<p>事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)</p> <p>〈分析〉</p> <p>○情報発信強化の取組については、オープンプラットフォーム会議が年度未開催のため、現図書館の利用促進にはすぐに効果が現れにくく、新図書館への機運醸成に留まりました。SNS更新については情報に限りがあったため想定していたよりも更新頻度は低くなってしまいましたが、図書館活動の周知に貢献しました。 ○蔵書整理については、蔵書構成比を考慮した適切な資料選定・収集を行い、資料展示によって来館者と資料との出会いを促しましたが、貸出冊数、登録者数増加に結びつくには、ウェブサービスなど非来館でも受けられるサービスの充実も必要だったと考えられます。 ○資料提供および企画事業については、資料提供機会の拡充と来館機会の促進が利用者登録や貸出冊数の増加に結びつくよう取り組まれましたが、効果は限定的でした。 ・図書館所蔵の資料の著者や監修者を招いての講演会を11月には実施し、来館のきっかけづくりへつなげました。 ・10月より在架予約サービス(貸出がされていない資料においても予約を受けする)を開始したことにより、ウェブからの11月の資料予約数が前年度470件に対し今年度657件を達成し、前年同月比1.4倍となり、貸出冊数増加へ結びついています。</p>	<p>主な取組① 今後の展開</p> <p><input type="checkbox"/> 達成終了</p> <p><input type="checkbox"/> 継続・拡充</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 大幅見直し</p>
------------------	--	---------------	---	---	--

< DO >

成果指標に近づくための主な取組②	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>情報が古い、利用が図られていない、破損、汚損している等を複合的に精査し、図書を適切に除籍し、年次予算の中で計画的に新規購入した図書の新陳代謝を図ります。出版6年以内の資料の割合20%発行年数が経過しても利用ニーズが見込まれる図書は、公開書庫(利用者が自由に取られる集密型書庫)で提供します。</p>	取組指標に対する取組の状況	<p>蔵書購入計画に基づいて資料の選定・購入を実施できました。出版6年以内の資料の割合については、令和6年12月現在19.3%。年度末までには達成見込みです。</p>	<p>主な取組② 今後の展開</p> <p><input type="checkbox"/> 達成終了</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充</p> <p><input type="checkbox"/> 一部見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 大幅見直し</p>
------------------	---	---------------	---	--

< ACTION >

成果指標に近づくための主な取組③	<p>主な取組③に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>鮮度の高い魅力ある資料やバリアフリー資料、洋書など多様な資料を収集し、市民のニーズを考慮した図書館サービスの提供に努めます。また資料展示や、地域資料を活用した企画事業等を開催し、資料提供の機会と来館の機会を促します。 図書館来館者数:前年度比より5%増。</p>	取組指標に対する取組の状況	<p>バリアフリー資料(蔵書図書)の貸出、展示や企画事業を実施しました。在架資料への予約を開始し、資料提供機会の拡充、来館機会の促進に努めました。来館者数は令和6年12月時点で約72000人であり、前年と同程度での見込です。</p>	<p>主な取組③ 今後の展開</p> <p><input type="checkbox"/> 達成終了</p> <p><input type="checkbox"/> 継続・拡充</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 大幅見直し</p>
------------------	---	---------------	--	--

< CHECK >

事業目的達成に向けた改善策等	<p>次年度後半は、現図書館から新図書館への移転と開館準備のため、図書館サービスを休止する期間が発生しますが、市民の自己実現と地域課題の解決につながるサービスを提供し、利用を促進するため、以下の取組を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館機会の拡充や貸出冊数の増加につなげるため、企画事業は幅広い層が図書館を訪れたくなるよう開催時間や内容を工夫し、継続的に実施します。</li> <li>・市民一人ひとりの求めに応える資料や情報を提供するため、幅広い利用が見込まれる実用書や辞書のある資料を収集し、蔵書の充実を図ります。</li> <li>・図書館のホームページと情報システムを更新し、わかりやすい情報発信と資料検索システムを構築します。また、全域にサービスポイントを整備し、非来館でも受けられるサービスの充実に努めます。</li> </ul>
----------------	---

基本方針3(教育大綱 柱3) 次代を生き抜く力を育む教育環境の整備	教育政策課
施策	主管課
事業	関係課
事業目的	別府市教育委員会は、「健やかな別府っ子を育む」[質]の高い学校給食の提供]を基本理念に、衛生管理の徹底と快適で効率的な運営【安全・安心】、多様な献立の創出と手作り給食の提供【おいしい給食】、地場産物の積極的な活用と食育の充実【食育・地産地消】、安全できめ細やかな運営を行います。

< PLAN >

成果指標①に近づくための主な取組①	<p>主な取組①に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>食材や調理法の工夫、新メニューの作成他、子どもたちからリクエスト給食や授業等で考案した給食を年に各10回以上提供し、子どもたちが楽しく感じる企画を実施します。</p>	取組指標に対する取組の状況	<p>旬の食材や行事等に合わせ、深ねぎグラタンやかぼちゃ蒸し、など新メニュー(年44回)を作成し、授業等で小学6年生が考案した給食(25回)、子どもたちのリクエスト給食(47回)を年10回以上取り入れることができました。</p>
-------------------	---	---------------	--

< DO >

事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿(成果)をめざすか。	<p>成果指標①…多彩でバランスの良い、おいしい給食に満足していると回答する子どもたちの割合70%以上</p> <p>成果指標②…自分自身の必要な栄養素などを理解し、苦手なものも食べようとする回答する子どもたちの割合70%以上</p> <p>成果指標③…大分県産DAYを設定し、大分県産食材の使用率60%以上、別府市産食材の旬の時期の使用率25%以上</p>
---------------------------------	---

< CHECK >

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>〈分析〉</p> <p>成果指標①について</p> <p>○学校給食に満足していると回答した児童は90%、生徒は86.7%でした。</p> <p>○旬の食材や行事等に合わせ新メニューを毎月3つ以上提供するだけでなく、子どもたちから毎日届くもぐもぐボストの意見を反映し、6年生が授業で考案したメニューや卒業生のリクエストを取り入れるなど子どもたちがワクワクするような給食づくりができました。一方で、満足していない理由として「おいしくないから」「苦手なものが出るから」などの回答がありました。苦手なものでも美味しく食べられる工夫を続けることにも取組②につなげて、栄養素等について知識を深める取組を続けま</p>
--------------------------------------	--

< ACTION >

成果指標①に近づくための主な取組②	<p>主な取組②に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>別府市教育委員会は、栄養教諭等による授業や通信等を通じて、子どもたちが自分自身の必要な栄養素を理解することができ、必要栄養素を174回実施することができました。</p>	取組指標に対する取組の状況	<p>子どもたちが食に興味関心を持つとともに自分自身の必要な栄養素を理解できる取組として通信を8回、授業等を174回実施することができました。</p>
-------------------	--	---------------	---

< ACTION >

成果指標②に近づくための主な取組③	<p>主な取組③に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>大分県産DAYを設定し、大分県産給食を実施する他、大分県産品の納入者にも協力を依頼します。</p> <p>生産者との意見交換会を年1回実施し、地元野菜の積極的な活用(旬の時期における活用目標:令和6年度25%)を行います。</p>	取組指標に対する取組の状況	<p>大分県産DAYでは、納入業者に協力していただき、多くの大分県産の食材を使用した給食を提供することができました。また、生産者との意見交換会を年1回実施し、旬の時期に合わせた地元野菜の積極的な活用を行いました。天候の影響などから重量ベースでは13.9%、金額ベースでは20.8%と目標には達しませんでした。</p>
-------------------	---	---------------	--

主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

主な取組③ 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

主な取組① 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

事業目的達成に向けて設定した成果指標の達成度等 (アウトカム評価)	<p>〈分析〉</p> <p>成果指標①について</p> <p>○学校給食に満足していると回答した児童は90%、生徒は86.7%でした。</p> <p>○旬の食材や行事等に合わせ新メニューを毎月3つ以上提供するだけでなく、子どもたちから毎日届くもぐもぐボストの意見を反映し、6年生が授業で考案したメニューや卒業生のリクエストを取り入れるなど子どもたちがワクワクするような給食づくりができました。一方で、満足していない理由として「おいしくないから」「苦手なものが出るから」などの回答がありました。苦手なものでも美味しく食べられる工夫を続けることにも取組②につなげて、栄養素等について知識を深める取組を続けま</p>
--------------------------------------	--

主な取組② 今後の展開	<input type="checkbox"/> 達成終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続・拡充 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 大幅見直し
----------------	--

成果指標②に近づくための主な取組③	<p>主な取組③に係る具体的な取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で</p> <p>大分県産DAYを設定し、大分県産給食を実施する他、大分県産品の納入者にも協力を依頼します。</p> <p>生産者との意見交換会を年1回実施し、地元野菜の積極的な活用(旬の時期における活用目標:令和6年度25%)を行います。</p>	取組指標に対する取組の状況	<p>大分県産DAYでは、納入業者に協力していただき、多くの大分県産の食材を使用した給食を提供することができました。また、生産者との意見交換会を年1回実施し、旬の時期に合わせた地元野菜の積極的な活用を行いました。天候の影響などから重量ベースでは13.9%、金額ベースでは20.8%と目標には達しませんでした。</p>
-------------------	---	---------------	--

< ACTION >

事業目的達成に向けた改善策等	<p>・旬の食材や行事等に合わせた新メニューや授業等で小学6年生が考案した献立、リクエスト給食などは、献立表を見ても楽しめるように子どもたちも多く、今後も子どもたち等の意見を取り入れながら実施していきます。また、試食会や栄養教諭による食育講話、SNSなど保護者等の方にも食の大切さを知ってもらうような企画や食に関する多様な取組を検討していきます。</p> <p>・その他にも親子料理教室や給食センター見学ツアーなど新たに食に関心を持てるきっかけとなるような企画や食に関する多様な取組を検討していきます。</p> <p>・地産地消については、気象状況や物価等を踏まえ、農家の方々と協議しながら進めていく必要があります。地産地消(使用量を増やす)に加え、子どもたちが種換えや収穫など「地域での体験」を通じて、食材や生産者に対する感謝の心を育めるような取組も実施していきます。これらの取組を通して、子どもたちが楽しみながら食に興味関心を持ち、食を選択できる力を身につけるよう支援します。</p>
----------------	--

### Ⅲ 知見活用委員会による意見

○ 立命館アジア太平洋大学 教授 本田 明子 氏

今年度も知見活用委員会に加わる機会をいただけたことに感謝します。この委員会に参加するたびに、別府市の教育行政に関わるみなさまがそれぞれの信念と情熱をもって仕事に取り組む姿を目の当たりにし、深く感銘を受けます。

今回の知見活用委員会の場でも、そうした思いを新たにしました。別府市には「別府市教育大綱」という市の教育を支える理念があり、一つ一つの事業がその理念の実現のための施策になっており、事業の成果の点検・評価もその基盤となる理念にもとづいておこなわれています。点検・評価シートの記載方法も、だれが読んでもわかりやすく伝えるということを念頭に年々改善されていることもよくわかります。

事業の成果の点検、そして評価に関し、いつも非常に難しく感じることがあります。それは成果指標として数値を目標にすることです。評価において目標を数値化して客観視するのは必要なことですが、教育の成果の数値化にはさまざまな問題が伴います。たとえば偏差値など、教育の成果を学力というテストの点数で示す数値化は、否定的にとらえられることが多いと思います。別府市の教育大綱においても基本方針（柱1）で、『学び、育つ』ことを重視した教育へのもとに4つの「学びの姿」があり、「互いを信頼し、互いに納得する学び」や「一人ひとりに適した多様な学び」などをうたっています。このような学びは知識の量を測るような学力テストの結果では示すことはできません。そのためか、各事業の成果目標となる数値には、事業実施後の参加者のアンケート結果を利用する例が散見されます。しかし、参加者へのアンケートは、事業の評価だけではなく、参加者の声を次の事業の改善に生かすという意義もあります。そのとき、「学んだことが役に立つ」といった回答がX%以上になることを成果指標として掲げると、肯定的な評価を得ることがアンケートの目的になりかねません。多様な参加者の多様な声をすくいあげることもアンケート実施の意義の一つであるなら、肯定的な評価だけが必要なわけではありません。また、「多様な学び」を追求するなかで成果指標として100%を求めることへの疑問を感じる部分もあります。たとえば、事業名「ICT教育の推進」の達成指標の一つに「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と回答する児童生徒の割合が100%というものがあります。この事業の目的は「学習者が主体となる授業の実施、および、情報を主体的に選択・活用していくための基礎的な資質としての『情報活用能力』の育成に向け」たICT教育の推進です。事業の説明の中では、ICT機器は文房具の1つであり、使うことが目的になってはいけないというお話もありました。そうであるなら、「勉強の役に立つ」と思う児童生徒が100%である必要はなく、使いかたを理解したうえで、自分の学びに必要なかどうか選択できるかが問われるべきです。また、事業名「特別な支援が必要な子どもたちへの支援」の成果指標はアンケートの結果ではなく、「日本語指導が必要な子どもへの生活面の適応、日本語学習、教科学習等の支援や指導ができている割合が100%」となっており、その達成度は100%でした。100%という達成度は評価されるべきですが、「支援や指導ができている」というのがどういう状態なのか、というのは個々の状況によって異なるはずで、その評価は数値では測れない部分ではないかと思えます。しかし、事業の成果を分かりやすく可視化するための数値としては、可能な限り高い数値が設定され、数値目標を達成していないために事業評価がBやCになるということが生じています。このように数値では表せない質的なものをどのように点検し評価するかは今後の課題になると思います。そして、こうした数値化できない事業の成果や意義を一番理解されているのは事業に携わるみなさんだということを、この委員会を通して知ることができ、非常にうれしく思っています。この点検・評価シートにこめられた数値以上の価値が広く伝わることを願っています。

別府市教育委員会では、「第2期別府市教育大綱」（令和3年度策定）を受け、令和5年度から継続して「別府市教育行政アクションプラン（令和5年度・6年度）～『第2期別府市教育大綱』の実現を目指す推進計画」を実施している。別府市教育委員会は、「自分らしくしなやかに生きる 自立した人」「互いを尊重し、『ふるさと別府』を愛する人」を基本理念（目指す人間像）と設定し、以下に示す3つの基本方針にそった施策を進めている。

基本方針に表現されるのは、別府市に暮らす人々一人ひとりの日々と未来が心身ともに健康であり充実したものとなる、ウェルビーイングな社会を目指す姿勢である。報告書への意見を述べるに先立ち、本年度も施策の策定や具体的な取り組みに尽力なされた教育委員会及び関係者に敬意を表する。

【基本方針（教育大綱 柱1） 「学び、育つ」ことを重視した教育】

4つの施策の下、11事業、22の取組が実施された。幼児期から小中学校段階までにおける子どもたちの成長と学びを支える施策が整備されている。それは子どもたちに直接関わる教員に対することにも及ぶ。

自己評価をみると、22の取組中「達成終了」が1、「継続・拡充」が20、「大幅見直し」が1と、おおむね達成されていることがうかがわれる。「大幅見直し」と評されたのは、自然体験活動に関する内容である。自然な体験活動参加割合は目標の60%に達しなかった。来年度はニーズに合ったものへと改善されていくとのことである。今後に期待したい。

【基本方針（教育大綱 柱2） 地域に学び、地域で育み、地域を創る教育】

4つの施策の下、6事業、14の取組が実施された。施策では、別府で生活する人々が、別府の特色を活かしつつ、この地で豊かに学び、未来の別府を創造することが目指されている。

自己評価をみると、14の取組中「継続・拡充」が9とおおむね達成されている。その一方で、1つの事業が「大幅見直し」、4つの事業が「一部見直し」と評されている。「一部見直し」に該当するものには、例えば補充学習の機会提供が含まれる。来年度に向けて、実施形態や実施方法の見直しがなされるとのことだが、加えてボランティアの募集方法についても検討を求めたい。

【基本方針（教育大綱 柱3） 次代を生き抜く力を育む教育環境の整備】

2つの施策の下、2事業、6つの取組が実施された。教育環境として新図書館の整備や学校給食センター等の運営が、事業として取り上げられている。

自己評価をみると、6つの取組中「継続・拡充」が4、「一部見直し」が2であり、達成度が高いことがわかる。「一部見直し」の2つは、図書館に関する取組での評価である。その1つは現図書館の来館者数に関してであり、目標（昨年比5%増）は達成されなかった。アクセスや駐車場の問題があるが、それらのクリアは物理的に難しいだろう。新図書館利用の気運を高める取組が現図書館への来館者増につながると期待されるので、継続した新図書館整備にまい進していただきたい。

最後に、不登校（注：別府市では、「学校に行きづらさを感じている児童生徒」と表現する。）支援の充実について述べたい。不登校の増加は全国的な問題であり、対応は喫緊の課題である。別府市においても現在「学校に行きづらさを感じている児童生徒」への働きかけとともに、「学校に行きづらさを感じている児童生徒を出さない魅力ある学校づくり」にも取り組んでいる。これらは「学校に行きづらさを感じている児童生徒」を少なくするための大変重要な取組であり、今後一層の充実が求められる。加えて、今現在「学校に行きづらさを感じている児童生徒」への日々の学びをサポートする視点もおろそかにはできない。ただ、「学校に来づらさを感じている児童生徒」を学びに向かわせることは簡単なことではないと想像する。来年度の改善案としてあげられている「学校に登校できていない児童生徒の学力保障（学びの場）の仕組み」の構築に、期待を寄せるところである。

○ 大分大学教職大学院 講師 山本 遼 氏

### (1) 事務事業評価シート（自己評価）のあり方について

ここ数年、別府市教育委員会はより良い点検評価のため、評価シートの修正に取り組んでいる。今年度の修正について、次の2点が重要と捉えた。

第一に、取組指標とは「誰が、何を、どのくらいの頻度で行うか」に関する指標、成果指標とは「事業目的達成に向けて、今年度はどのような姿（成果）をめざすか」に関する指標と整理されたことである。昨年度、例えば取組指標と成果指標に同様の内容が記述されることがあるなど、各指標に何を記述しているか、両者の関係はどうなっているかについて、読み手の立場からはやや不明確に見えていた。こうした部分が改善されている。第二に、CHECKにおいて、「成果指標をどの程度達成できたか」という「結果」に加えて、「なぜ成果指標を達成できたのか・最も重要な達成要因は何か」または「なぜ成果指標を達成できなかったのか」という「分析」を記述するようになったことである。

また、評価シート全体を通して、事業主体が別府市教育委員会であることを意識して記述されていると感じた（過去の知見活用委員会では、事業や取組の主体（主語）が誰か、議論になることがあった）。今後さらに、別府市教育委員会の思いや考えが成果指標や取組に現れることが期待できる。

### (2) 基本方針1 「学び、育つ」ことを重視した教育

説明を聞き、「子どもを主語にした学びの推進」「自律した子どもが育つ学びの推進」「安全で安心して過ごすことのできる学校づくり」という3つの施策について、短期的に、すぐに成果がでるとは限らないと改めて感じた（他の方針の施策も同様である）。そのため、長期的な視点に立って成果を設定したり、取組を構想したり、成果を積み上げたりすることが重要になると思う。ここで長期的な視点とは、例えば「何年計画で施策を実現するか（アクションプラン等で検討されている部分）」「いつまでに、何をどのようにするか」「今年度は計画の何年目にあたるのか」を意識する等である。

### (3) 基本方針2 地域に学び、地域で育み、地域を創る教育

説明を聞き、学校教育と社会教育の連携が意識されながら施策が進められていると感じた。昨年度も意見書に書いたが、このことは、これからの学校・家庭・地域の連携・協働（コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的な推進等）を進めるために不可欠であると思う。具体的な連携の事実やその成果について、事業シートに記述し、実績として積み上げていてもらいたい。

### (4) 基本方針3 次代を生き抜く力を育む教育環境の整備

図書館の整備について、「市民との対話」により図書館の新しい機能を探りながら進められている。説明を聞き、新しい社会に向けて未来志向で検討されていると感じた。また、給食センターの運営についても、「食育に活用できる安全・安心でおいしい給食の提供」「食育に資する地元食材の活用」等を意識して、丁寧な取組が行われていると感じた。

事業全体を通して、別府市教育委員会は施策や事業の推進に意欲的かつ真摯に取り組んでいる。点検・評価を踏まえて、施策のさらなる質的向上がなされることを期待できる。

#### IV 教育委員会活動状況（令和7年6月1日現在）

##### 1 教育委員会組織

###### ○就任状況

氏名	役職	摘要	任期満了年月日
寺岡 悌二	教育長	平成21年12月1日 教育長就任	令和9年9月30日
福島 知克	教育長職務代理者	平成27年10月1日 教育長職務代理者就任	令和10年6月30日
山本 隆正	委員	平成30年7月1日 教育委員就任	令和8年6月30日
新谷 なをみ	委員	令和3年7月1日 教育委員就任	令和7年6月30日
松浦 倫	委員	令和4年7月1日 教育委員就任	令和8年6月30日
田中 淳子	委員	令和5年7月1日 教育委員就任	令和9年6月30日

##### 2 教育委員会の会議等開催状況

(1) 会議 毎月1回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催した。

○令和6年度 教育委員会開催状況

①定例教育委員会 12回開催

②臨時教育委員会 2回開催

○令和6年度 議案等の付議状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
議案	3	5	3	6	4	1	0	7	4	1	6	11	51
報告	0	1	1	0	2	2	1	2	2	0	1	1	13
計	3	6	4	6	6	3	1	9	6	1	7	12	64

##### (2) 主な活動

令和6年度教育委員参加行事等

- ・幼稚園の入園式、小・中学校の入学式（4月）
- ・小・中学校の運動会・体育大会
- ・大分県市町村教育委員会連合会総会（5月）
- ・総合教育会議（5月）
- ・別府市奨学生選考委員会（1月）
- ・幼稚園の卒園式、小・中学校の卒業式（3月）

## V まとめ

令和3年3月に策定された「第2期別府市教育大綱」では、これからの時代を生きる「目指す人間像」として「自分らしくしなやかに生きる自立した人」「互いを尊重し、『ふるさと別府』を愛する人」が基本理念として示されています。これまで、この大綱を具現化するための事業について、別府市教育行政アクションプランに示し、各事業を推進してまいりました。

加えて、別府市教育委員会では、事業の推進に注力するだけでなく、その自己評価を行い、知見活用委員の皆様による外部評価をいただくようにしてきました。令和3年度から知見活用委員に就任していただいている立命館アジア太平洋大学の本田明子先生、別府大学の櫻田裕美子先生、大分大学大学院の山本遼先生の皆様には、毎年の知見活用委員会を通じて的確な点検・評価をしていただくだけでなく、本市の教育課題への取り組み方について、経年で見守っていただくなか、前年度の成果や課題を踏まえた上で、一層の改善につながるご示唆をいただくことができました。

「点検・評価シート」による自己評価と知見活用委員の皆様からの評価・点検を得ることで、毎年、各事業の目的を再確認し、PDCAによる改善のサイクルを回してきました。知見活用委員会では、点検・評価シートに現れる結果や数値だけでなく、そこに至る事業担当者の思いや考え方を聞き取るなど忌憚のない協議を通じて、これら事業の実施が教育大綱の理念実現に寄与しているのか、子どもたちや市民の幸せに繋がっているのかなど、大きな理念とその目的、そして自らの現在地を確認していく大事な振り返りへと高めていただきました。こうした知見活用委員の皆様のご指導とお導きで、この点検・評価の取組に芯が通り始めているように感じます。

「第2期別府市教育大綱」に係る別府市教育行政アクションプランに対しての点検・評価はこの報告書で一区切りとなりますが、令和7年に策定された「第3期別府市教育大綱」に係る事業推進におきましても、その理念に近づけていけるよう、点検・評価・改善の取組を進めてまいります。